WASON
HQ
1104
J74+

Apr. 13
1889
no. 157

女學雜誌

一冊六錢
當府内無郵税

版權所有
各土曜日出版

明治廿二年（第百五拾七號）四月十三日發

社説
何ぞか中正の旨義と云ふ、女子教育に關する幾多の謬見

論説
鶴龜松竹梅（鈴木弘恭）

批評
紅葉山人の風流「京人形」

叢話
青年歎○歸雁○二百年前の雨○旅のはじ

佳傳
破鏈譚第七回（鏈破れて伉儷合す）（大尾）

小説
理想の紳士第十一回（月の舎しのぶ）

寄書
歌十七首○胸の鏡

新報
國の基○女學生試驗法改正○大禮中の最大禮○十二年後の米國女權世界○ソルダイセル氏婦人の說○養育院慈善會○女子師範學校卒業生○愛知郡婦人會○鹽津女學校○他數件

外報
デムマーク○ウイラード孃の著書○コンス孃市參事會員となる○米國婦人協會○二千五百弗

附録
百人一首講義○女子讀本○婚姻說

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 157. April 13th, 1889.

EDITRIAL:—What is Meant by the Right Principle. (Mistakes in Regard to the Woman's Education)

LEADING ARTICLES:—Salutatory. (Mr. H. Suzuki).

CRITICAL NOTES:—"Furiu-kyo-Ninkiyo."

MISCELLANIESS:—"The young Man's Complaint." "The Returning Gulls". "The Flower Rain of Two Hundred Years Ago." "Disgraces of a Journey."

BIOGRAPHIES:—"Breaking the Fetters.

NOVELS:—"The Ideal Beau"

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

女學雜誌は日本の女性を代表す、日本の女性は女學雜誌の如くなり、亦如くなるべし、亦如くならんことを望む。日本の女性を知らんと欲せば女學雜誌を見よ、之に知られんと欲せば先づ女學雜誌に知られよ。女學雜誌は日本婦人の分身にして、亦た其の敎師、案内者、相談相手たるなり。

●珊瑚の珠

○道に隨て賢こし

應擧雞を描き祇園祠に獻ず人皆な其の巧手なるを驚歎したり蔬菜を賣る翁之を見て獨語して曰く雞の傍に草を描かざりしは最も可なりと門生尾して行き其家を知る應擧翌日酒肴を携へその家を訪ひ懇ろに敎誨を乞ふ翁曰く吾れ書を知るものにあらずと雖も嘗て雞を畜養せしに羽色の四時に變するを記臆せり足下の描きたるは冬の羽色にして殊に精妙なりしかば其傍に草なきを歎賞したるなりと應擧覺えず伏して之を謝す」又嘗て猪を畫かんとするにまのあたり視たることなし老婆をして猪を見せしむ後日其の報により林に行て臥したる猪を見密かに之に近づき其の眞をうつして歸る臥猪の圖成り此を鞍馬より來る老翁に示すに翁は熟視して云ふ假令ひ眠りたりとも生けるものは自ら生氣あり今ま此の猪を見るに勢なし恐くは死猪ならずんば必す病猪ならんと數日かの婆の來るとき之を問へば即ち彼の猪は其夜林中に死したりと云へり」又た觀世攻郎太夫猿樂中の曲名木賊と云へるに最も巧みなり櫻田に塲をひき伎を演ず聚り觀るもの喝采して已まず獨り隅に笑ふものあり太夫曲了りたる後ち敬して其の笑ふ所をとへば傖夫云ふ吾れは陸奥の人にして木賊を刈るを業とす木賊叢り生ずるときは鎌をとる尤も難し一前一却して便ちよく刈るなり今ま君が爲す所を見るにたゞ却ぞき剪するのみ吾れゆゑに其法を失するを笑ふと太夫あつく之を謝したり」あゝ孔子も吾は老圃に如かずと云へり蓋し道に隨て賢しの意なり。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌の一進化

現今の日本は合計十三種の女流雜誌を生存せしむ我國の女界は多福なりと云ふべし此間に立ちて其出現したる時の尤も早く其發行する度數の尤も多き者は蓋し我女學雜誌なり而して若し鋭意熱心に女學を研究し女權を擴張し女德を伸達し併せて社會に純潔の空氣を流通せしめ交際に和樂の眞愛を布滿せしめ文學に高尚の理想を抽起せしめんとする者あらば女學雜誌は數年一日の如く其驥尾に附かんとを勉めたるもの也故に十有三種の女流雜誌にして我日本に若干の功益ありしとせば我女學雜誌も亦た聖世の恩に万一の義務を盡したるもの歟然らば則ハち女學雜誌は幸にして他の多くの同性雜誌に伴侶たるとを得たるもの也。

但だ夫れ女學雜誌は他の同性雜誌に比較して確かに一個の異れる希望を懐き來れり即ハち彼は必らずしも多く我女流社會に讀まれんことを願ハずして寧ろ多く男流社會に顧みられんとを望み其辨ずる所ろ勸むる所ろ訴ふる所ろは常に多く此方向に傾むきたり而して世に女流雜誌の出現すると益す多きに随て女學雜誌が此の一希望を實行するの度も亦彌よ進みたり故に常に思へらく彼の專ぱら我親愛する所ろの女流を慰さむるものは他に必らずや其人あらん女學雜誌は敢て其外に一進歩せざる可らずと。

明治十八年八月女學雜誌第一號の出版せられてより若し爾來五年間に於ける吾人が一長路の進歩を顧みるものあらば蓋し右に述懐したる吾人

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

が希望を承知せらるゝの人あらん而して世に若し如此き知己あらば其人は今や日本國の時勢將に一大變せんとするに當りては女學雜誌も亦之に隨つて一進歩せざる可らざるとを承知せらるゝならん實に然り吾人は今に於て此の責任あるとを確認したるもの也。

之を以て女學雜誌は今後更に一進歩せんとす即ち其論說記事を新たに政治的社會的外交的にし從來に比較しては更に多く文學的攻擊的結構的主張的新鮮的たらしめんと欲す故に彼の公平に女學の理を探究し神潔に女德の基礎を確立し熱心に女權擴張の方法を主張し周密に女子敎育の方案を運らし以て淑女賢妻良母を養成し保護し運動せしめ以て社會の德を淸くし國家の礎を固くし天下長久の大策を建立せんと欲するに於ては吾人が希望とする所ろ敢て前日に異なるとなしと雖ども但だ其異なる所は今後社會に向て更に廣く打ち出で更に深く切入り更らに明白よ男流諸氏が目前に立現わるゝに在り而して望む所ろの大極は即はち人類の自由を眞正にし公義淸德の大道を發揮し萬國を無爭の一家と爲し男女同等上下一致國家和樂天下太平の眞樂地に到らんとするに在り故に若し宇宙に坤道あり社會に女粹あり文學に陰德あり交際に和性ありと云はゞ女學雜誌は此の坤道女粹陰德和性の一門よりして敢て大天地を見るのみ豈に自から中正の旨義を得ると云はんや希ふ所ろは一臂を捧げて坤輿を大中至正の道に進むるの勞に加はらんとする耳。

此故に來五月四日出版の雜誌即はち本誌第百六十號よりして面目を一轉化し其後時勢の必要に應じて着々進歩すべし就中雜誌に時論時事の兩欄を加ふる事批評傳記雜錄等の欄内に惣て女學以外の記事を合せ掲ぐる事紙數に增加ある事圖畫の精鮮となる事社員に三名の增加ある事社宅の移轉する事而して定價の元の如く配達の更に迅速となる事等は先づ第一着手とする所の小進歩なり其他の細事に至ては願くは來月以後の雜誌紙面に就て見よ。

而して來月初刊の雜誌には山田美妙齋　饗場篁村　内田不知庵（新加社員）の三氏が一ヶ月前來本誌の爲に反譯著作に從事せられたる新小說を掲げ特に多數の增刷を爲して廣く世上に分配すべし故に此號に於て廣告せられたき向は本月廿五日迄に申込るゝを便とす。

以上の改進に付き左の三事を廣告す、

今後女學雜誌は何如なる種類の書籍をも公平に批評するに付万種の新著作を寄贈せられたき事

特に寄書の多からんとを望む而して說の非凡著實に文の極めて簡短高潔なるものを望む事

餘興の材料たるべき落語（滑き）、ナゾ（潔ぎよき）、隱紛（罪なき）、考へ物（面白き）、等の寄送を熱望する事。

女學雜誌主筆　巖本善治　記

女學雜誌　第百五十七號　明治二十二年四月十三日發兌

社説

○何をか中正の旨義と云ふ、
女子教育に關する幾多の謬見。

昔し或る人鬼の面を持てり、之を手にて持たる時は子供もシヤレつきたるが一と度び冠ぶつて立ち上れば泣出して逃げたりとぞ、思ふに天下の事大抵如此し。故に今日の人若し全身に赤土を塗り、顔に嚴めしき化粧を爲て戰塲に打出る野蠻人を見ば、其の抱腹絶倒せざるもの殆んど稀れなるべきに、之に反し若し天主教會堂の壯嚴なる裝ほひを見、官員樣の馬車八字髯を見、論客の文章に何々氏曰くを見、雜誌に大きなる廣告と生巧館作の表紙とを見れば、其の殆んど敬服絶倒せざる者は殆んど稀れなるべし、嗚呼欺むき易きは尋常の俗眼なる哉、地を換えて甘まく見すれば赤子の如く感服す、何如に八釜しき自由家も自由の被ひを用ゆれば彼は握手すべし、何如に頑固なる守舊家も守舊の冠りを戴けば彼は接吻すべし、扨ても〳〵制し易さは俗人なる哉」。然りと雖ども吾人は之が爲に喜こぶとを得ず、寧しろ大ひに慷歎するとを禁じがたきものなり、見よシーザー、アレキサンドル、ナポレオンの壓制一變してビスマーック、グラッドストーンの壓制となるを知り、ビスマーック、グラッドストーンの壓制更に一變して議會議院の多數的壓制となるとを知らば、彼の君主の壓制は父の壓制に於て生殘り、父の壓制は息子の壓制に於て形見を止め、息子の壓制は遂に細君を壓制するに於て名殘を殘こすとを知る、好し帝國議會は開け、日本臣民は惣ての自由を得たりとするも、女性に對する世人が感想の尚ほ依然として昔しの如くならば、氣儘亂暴ある專制的の惡魔は巧みに姿を變じて即はち此の最後の一陣に踏止まれるとを知る也。

吾人は日本の自由家民權家なるもの丶議論を聞き厭たり、彼等は「我に天賦の自由を與へよ」と云ふ也、而して彼は政府が人民を愚にするを憤ふり、人民の權利を壓制するを怒り、當に人民が行くべきの地に消遙せしめざるとを慷慨せり。好し其の自由家民權家は成るべく盛んに慷慨憤怒せられたし、然れども彼は天井に向つては其失敬なるとを怒り乍ら其足下に他人の頭を踏付にするとを忘れ、彼れが恰かも政府より看下さるゝの驕慢を以て同じく彼が足下の人間を看下したり、嗚呼政府が人民に向つて「之に依らしむべし知らしむべから

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ず」と云へば怒る、然れども其の妻に向つては驕然として曰く女は之に依らしむべし知らしむ可らずと、如此きは蓋し地を換ゆるの異觀によりて眼こを誤まりたる也、俗眼の見識こそ反すく〱も悲しき哉。之を以て古來女性の爲に眞正に辨護するものは、彼の卓然たる哲學者か、惣べての壓制に憤うる自由家か、極めて公平無私なる君子人の外に出でず。

吾人不肖固より世に偏功あるなし、然れども希がふ所ろは彼の哲學者自由家君士人の跡を追ふて万代の恩に報ひんとするに在り、平素尤とも惡む所ろのものは弱を抑へ貧を輕しむの僞英雄なり、故にたとひ自から一正を爲す能はずと云へども若し主に万金の許しを得て隣人に百金の財を要るの惡を爲さずんば大幸なり、之を以て今の學者が尙ほ女性に對するの極めて無禮なるを見れば敢て愚を忘れて之を筆誅せざるを得ず、嗚呼誰か吾人を以て女性の爲めに勳爵士を氣取ると云ふ、吾人は男性にして女性に縁うすきもの也、但だ夫れ自由の伸びざる、眞理の顯はれざる、人性の發達せざる、一國民の大進化せざる、神の榮光の正當に見彰せざるを見ては、懦夫と云へども豈に憤立せざる可けんや。

蓋し女子敎育に關する謬見東西に無數なり、彼の英國の如き亞米利加合衆國の如き、其の女子敎育の盛大なることは吾が國民が想像し能はざるの上に在りと雖ども、然れども尙ほ其の敎育論に關しては幾多の暴論ありと云へり、况んや我國の如く古來曾て女子を文明的に敎育したることあらざるの地に於て近く二三年前來に於て初めて其の議論を開きたるの日に當ては、斯る謬見暴論の現はるゝも固より當然ならん、思ふに吾人の如きも亦た無經驗の言を吐くこと多からん、其說の當らざるあるは亦た必然の數と云べし、但だ能く謙して正直に眞理を考究し、以て異日の大光明に一火を添ゆるあらんのみ。

故に吾人が信ずる所ろによりて今の本邦女子敎育論を見るに、實に無數の氣儘なる議論ありと思ふ、今ま其の尤も普通なるものを擧げて一々に短評すべし、若し夫れ細密なる論辨の如きは、他日吾人に反問を辱ふするの人あらん時を待つ。

一。惣べての謬見の大元因は男女を不同なりとするの論渦より起り來る。抑そも男女は固より不同なるものなり、凡そ何如なる論者出るありとも必らずや決して之を同一なりと爲こと能はじ、今の男女を見るに、男は强くして女は美なり、男は勇猛確實にして、女は疑惑謙遜なり、男は働くことに於て大に、女は耐ゆることに於て大なり、男は外に輝やき、女は家に輝やく、男

は信服さする如く談じ、女は勸むる如く談す、男は岩の如き心を保ち、女は軟らかき優しき心を懷く、男は不幸の來るを妨たげ、女は不幸の來りたるを慰さむ、男は學術を知り、女は趣味を解す、男は判斷に強く、女は感悟に鋭どく、男は正強の人と爲り、女は慈悲の天女となる、大要するに一は陽、一は陰、一は武、一は文なり、此と彼と決して混淆離合す可らざるの異質を存するを見る。然りと雖ども今の目前の相違を觀じて、抑そも男女は天稟に如此き懸隔あるものありと云はば大ひに誤まれり、同一の秀吉と云へども、草履をつかむで人に使わるゝときと、權を握つて天下に號令するときとは固より同じからず、故に今の女性の如く數千年來非常の壓制を蒙むり、未だ嘗て自由に逍遥したるとあらず、未嘗て十分に教育せられたるとあらず、又未だ嘗て相應に其の天才を實用したるとあらず、常に壓せられ抑へられて束縛の空氣中に慣習したる一種の卑屈性を生じ來りたるの今日に於ては、必らずしも直ちに之を取つて之れ女性の質なりと云を得ざる也。左れば吾人は先天的に男女の性質の必らず相違すべきとを知れり、然れども其の何如ほど迄に相違するやは之を後天的に實驗せざる可らず、之を先天的に考ふれば男女別異の最極點は一は子を產み他は產まざるの一點のみ、故に產兒よりして來る身理上精神上社會上の影響は實に女性が男性に異なりて所有する所の結果なるべし、之を以て向後何如ほどに男女を同地位に置くと云へども男女は必らずや此の一點の影響よりして異分せざる可らず、而して此の異分の何如なるものなりやは、之を後天的に研究せざる可らず。

之を以て男女を同一ありとするは固より不可あり、然れども今の男女を實見して如此く同一あらずとするも亦固より不可なり、故に吾人は聰慧に誠實に熱心に科學の證する所を恃み、先づ理想し次に實驗し、先づ實驗し次に理想し、先天後天の研究を盡して初て大決すべし。決局、此の第一題に對しては先づ輕々しく斷定する者を以て之れ謬見なりと判するを正當とす。

二。男女の腦を比較して女子は男子に及ばずとする者あり。彼は腦の大いなるもの若くは腦の緻密なる者を以て直ちに優者の證としたり、然れども此は只だ生理上の一點より觀察せしのみ、人の智德の優劣は未だ決して生理上の問題を以て解了するの時に至らざる也、學者云く古來腦の尤も大ひなりしものはキウビーアなりと然らばキウビーアは何故に古來第一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

等の人物たらざりし乎、況んや云く、キウピーアの次に腦の尤も大ひなりしものは或る名も知れぬ洗濯屋の婆さんなりと、此のお婆さん何故に天下第一等の女丈夫とならざりし乎、況んや又云く腦の大なるとは比較的に云ふ若し之を身躰と比較して云はゞ女性の腦は大抵男子よりも大なりと、然らば天下の女子何故に男性を支配するに至らざりし乎、況んや又更に云く、腦の尤も大ひなるは人間にあらずして象なりと然らば象何故に人間に優らざる乎、云くたゞ大ひなるを云ふにあらず腦の緻密なるを云ふ也と、然らば腦の緻密なるは果して男性に多かりしか吾人は未だ十分ある生理學者の報告を得ざる也。決局、たとひ論者の言ふ如くなりとも、唯物論の全勝せざる限り、生理學に由て人性を解了し得ざる限り、此の一題によりて男女の優劣を定る能はず、故に亦た之に由りて女子教育を制限するを得ず。

三。女性の躰力は至つて弱はし、故に之れに十分若しくは高等の教育を與ふ可らずと云ふものあり。吾人も亦た永久女性は男性よりも躰力に於て弱かるべしと信ず、然れども其の何如程迄に弱きかは實に研究を要するの問題なり、今の論者今の女子を見て即はち女性は如斯く弱はしと云ふ、然らば彼れ若し日本國内の幾多の海岸地、及びアフリカ、南アメリカ等の内地に於ける女性勉勞の國風を見ば、女性は是れ男性よりも強きものありと云はざる可からず、抑そも今の日本女子の大抵が今日の如くに弱きは之れ封建時代の餘弊に出でたり、蓋し女性を密に閨内に垂込ましめ、時あつて僅かに運歩を數回動かさしむるの外に運動を許さゞりし國に於いては、其の今日の如くに幽靈然とあるは當然の因果なり、伯マッフヘー曰く伊太利のラッグーマッチヨウラにては總べての重きものは女之れを荷なひ、總ての輕きものは男之れを負ふ、或る時麥を肩にしたる農夫を見たり、彼れ喘々焉として數歩擔行せり、乍まち重きに堪へずして放り出して云く、之れは女の仕事なりと、論者若し此に到らば男子は弱はし故に之れに高等の教育を授く可らずと云ふ乎、凡そ如此き問題を論ずるものは常に現今の習慣と舊習の餘弊とを考へ、而して着々未來の善方針に向はざる可らず。故に男女は躰力に於て同一なりと云はゞ不可なり、然れども男女は今日の如くに躰力に優劣ありと云はゞ亦た不可なり、其何如ほど迄に不同なるやを深究し、漸次に今の女性をして強健ならしめ、遂に男女をして其の常に在るべき躰力に到らしむるを要す。決局、今の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女性を見て女は常に如此く弱はしとすると勿れ、須らく之を漸次に健强ならしむべし、而して其の衞生に不都合なき樣にして敎育を施す可きは勿論の事なり。

四。女子の智力は男性に劣る所あり、女性は創見に乏し、又古來大學者を出せしとあらずと、之に由りて女子に高等の智育を與ふるの無効なるとを說くものあり。嗚呼女性に創見乏しと云ふ乎、好し先づ之を乏しとせん、然らば創見の乏しきものは何を以て之に高等敎育を授けがたしとする乎、乞ふ見よ吾々日本人を、悲しひ哉古來外國の文明に摸倣したるの習慣により、大和民族はマ子に長ず然れども創見に乏しとの輿評を受るにあらずや、此は國粹論者と云へども出刃庖丁を握る人と云ども殘念ながら承知せねば成らぬ所也、夫れ日本人は…此の尊大なる大和民族は創見に乏しきなり、故に之に高等敎育を授くるは無用なりと云ふ乎、嗚呼かゝる人に導かるゝ人民こそ憫れむべき哉、吾人は思ふ日本人民に創見を與ふるの敎育を必要とするを知らば、論者の云ふが如き女性にも亦た高等敎育を與ふるは決して無効にあらずと知る、況んや女性は必ずしも惣ての創見に乏しきものにあらざるをや。

論者又云く、女性には未だ嘗てホーマーを出さず、アリストートルを出さず、シエクスピアを出さず、ダンテーを出さず、ミケルアンゼロを出さず、ミルトンを出さず、ベンーベンを出さず、ベーコンを出さずと、實に不幸にして之れを出さゞりき、然れども抑そも男性の間だには斯る人物が何人出でられしや、更らに問ひ申さん日本には嘗てかゝるホーマー以下の男子が出られしとにや、若し帝國大學にベーコンあり、都の花にシエクスピアありと云ふ廣告通りにてありしならば、幸はひにして女性にも亦た夫れ位の人物はありしなるべし、米國々會の議員インゴールス氏曰く、女性に未まだ嘗つてシエクスピア、エスプスターあらざりしと、エベレット夫人曰く成程夫はあらざりし然れどもインゴールス氏程の女性は澤山に候と。ジヨン、ニコル嘗て「英文學者」バイロンの傳中に於て論ずるやう、古來著名なる英文學者中の四分の三は大抵大學出身の人なり、而して女に未だ嘗て大學の敎育を與へずして直に之に大文學者あらんを望むは何如んと、蓋し之れ尤も無理なるとなり。ゼヲチサンド曰く、嘗て或る宣敎師が離婚を不可とするの論法を聞しに左の如し、

佛國には離婚禁止の布告ありし以來未嘗て離婚あらず。

斯く離婚あらざるを以て見ば離婚は不正の事に相違なし。

今の女子を見て、女子は無智なり、到底ダメなり、決して高等の智育を與へがたしと云ふものは豈に如此き論法を用ゆるものにあらずや、人は成べく高等に發達すべきもの也、故に其の躰力の許す限り、其の身事の許す限り、成べく之をして高等敎育を受けしむるは進化論者の熱望する所にあらずや、然るに今の論者は今の女子を見て直ちに女子敎へがたしと云ふ、是れ實に與へずして要むるもの也、吾人が郷に權兵衛と云へる種蒔ありけり、陽春四月の天豁て怠けて種を播かざりし、(或は云ふ烏に啄まれしありと、何方にても宜し)、秋風一來百穀正に熟す、隣人皆な出で、黄禾を收むるなり、權兵衛忙々然其の持畠に出で丶眺むれば一草なし、憤然として曰く此の畠は何たる貧地なるぞと、此時に於て果して權兵衛が無理なりや若くは亦た畠が無理なりや。結局、女性が當に得べきの高等なる性質を得せしめんが爲には、其の身躰其の事情を考へつゝ、成べく之に高等の敎育を受しむるを當然とす、今の女子の智力に乏しきを見て乍ち之を退くるは非常なる不深切なり、ホックスレー曰く假りに女の心身男子に劣れりとせんか若し劣れりとせば劣者に便利を與ふるの義務更に大切なるにあらずや、フエヂロン曰く汝女子の智力を以て弱はしと云ふ乎、弱くんば則ちいよ〳〵之を強くせざる可らず。

五。女性は遂に妻母と爲るものなり、故に其の目的を以て敎育せざる可らず、其他の高等敎育は無効にして反つて害ありと云ふものあり。吾人は惣べての女性を悉く人の妻たり母たるものと認定し得るものにあらず、然れども之を大括するときは女子は固より人の妻母と爲るもの也、故に亦た普通の女子敎育が必らずや賢妻良母を造出するの方向に向はざる可らざるを確信す、然るに此の確信あると同時に吾人は世論に異なる二つの意見を有す、云く、

女子は賢妻たり良母たらざる可らず、然れども亦た賢良なる人間と爲らざる可らず。

女子は賢妻良母と爲るを要す、而して賢妻良母の尤も賢良なるものは成るべき限り正當に高等敎育を受たる者也。

抑そも女性の心中には未だ發見せられざる無盡藏の寶庫あるべし、苟くも今の女子敎育に注意するものは先づ成るべき限り迄で此の寶庫を開發せしめ、女性をして其の達し得べき十分の人品に到らしむべし、アメリカを發見せしものはコロムバス也、女性の金穴を見出すものは果して誰れぞや、嗚呼吾人は男女の到底異別なるとを確信するもの也、故に亦た男女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の天職に不同あることを確信するもの也、然れども或る限りよ至る迄は男女固より同一に亦た固より同一の職を執らざる可らず、此に對して敎育する之を男女に普通なる高等敎育と云ひ、之より以上を男女それ〴〵の專門敎育と云ふ、苟くも男女をしてそれ〴〵に十分なる人間たらしめんと欲せば、先づ共に如此き高等敎育を受けしめざる可らず、而して次にそれ〴〵に其の專門敎育を受けしめざる可らず、此の專門敎育を受け了したるの女子こそ即はち最賢最良の妻たり母たるもの也、ミスコッブ曰く、男女を同一に教育したる爲に遂に同一の氣風と爲りたりと云ふか、左らば此の區域迄は素と同一になるべかりしものなり、敢て天禀の異質たりしにあらじと。

決局、今の女子を妻母的に敎育せんと主張して切りに之が敎育を制御するものは、之れ即はち女子を下等視し器械視し婢僕視するの見識のたゞ一變面したるものある耳。

六。女子に學問を授くれば生意氣となると云ふものあり。抑そも如此き愚論は辨ずるもバカ〳〵しきと也、抑そも人の學問するや一度は生意氣になる、更に學問してこそ此生意氣を經過して深く謙遜となるなれ、論者女子が學問すれば生意氣となると云ふ、然れども生意氣にならざるの男書生果して何程ありや、若しも此の生意氣を恐るゝの故を以て學問せしめじと云はゞ即はち寧ろ初めより天下人を愚にするに如かず、吾黨が必要とする所のものは、一層之を敎化して更に之を謙遜の人たらしむるにある也、特に注意せよ成り上りものは威張るなり、古來持たざりし智識を初めて得てし人の多少誇る所ろあるは止みがたきと也、更に注意せよ無鳥里には蝙蝠も跋扈すと、今や女學士は至つて拂底なり、此の時に當つて先進の女學士先生が多少誇る所ろあるは當然の事也、論者もし之を奇しまば須らく彼の頓か大臣の速りに威張るを見るべし、又須らく彼の博士學士の揚々たるを見るべし、故にもし之が嫌ひにてあらば多くの博士學士を出し多くの大臣を續々と出すに如かじ、故に女學生の生意氣を恐るゝものは更らにいよ〳〵之を敎育せよ、更らに多く女學生を出現せしむべし。決局、學びたるものゝ生意氣を恐れて之が學を中止するは是れいよ〳〵生意氣を增加する也、苟くも深く學はゞ天下に生意氣の人なく總べて之れ謙良温厚ならん、蓋しニウトンの學ありて即はちニウトンの謙遜を得べし、ニウトンの學に近づいて即はちいよ〳〵ニウトンの謙遜に近づくべし、ホックスレー曰く女子の頭までを敎育したればとて其の頭上の緑髮は美を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

失あらとあらじ、西諺に云く " Woman is never blue when she is deep red (Read) ! "

七。女は內を守るべきもの也、女の領地はホーム(家)あり、女の德は優美なるにあり、故に之に高等の敎育を與ふるは無効有害ありと云ふものあり。如此き問題に關して吾人すでに論ずべきは論じ盡したり、特に女子の本分は內にありと云ふとを尤も強く主張し、ホームの和樂及び女子がホームの王たるべきとを初めて主張したるとに付ては、吾人決して人后に立たじと記臆せり、然れども吾人は之れあるが故に女子の高等敎育を不可とするものにあらず、其理由を極めて簡短に畧言すれば左の如し、

女子は內を守るを可とす、然れども內なるものは必らずしも常に家內の義にあらず、男子が外に對して云ふのみ、ノアの時代には小亞細亞邊のみを天下と思へり、維新前は日本中を率土の濱とも申したり、然れども今や天下の字義、外、の字義の異ありし如く內なるものも亦た變はり行く也、太古は八重垣の內なりし、中古は閨門の內なりし、近古は四本柱の內ありし、當世は鹿鳴館の內慈善會の內赤十字社の內學校病院育兒院等の內となれり、而して之より又追々に變はり行くべし。

女は固よりホームを樂しくするを分とすべし、然れども大學者のホームに無學の細君ありて樂しきか、ベーコン曰く朋友とは並び立つものなり、一方優り一方劣り、一方高く一方の低きとを許さずと、故に若し夫婦が眞正の和樂を欲せば其智識學力の大抵同樣なるを必要とす、蓋し理想なきの家族は酒あきの德利よりも面白からず、智慧の足らぬ細君は大抵の下婢よりも面倒なり、凡そ眞正の和樂は高尙の敎育ある妻のホームに於て生ず。

女の德は固より優美なるべし、然れども優美とは一つの人德にして德は必らず一種の力より出づ、從來の女の優美なるものは卑屈より出でしなり、其の眞德にはあらざりしなり、コーレリッヂ曰く特質なきと云ふは單に弱はきと也、單に弱はきとは決して女子の美德と同一のものにあらずと、蓋し弱きものは大罪を犯すとあし然れども數多の小罪を犯すなり、眞實にてあるの勇氣なきが故に不眞實たるとあり、犧牲たるの剛膽なきが故に自利に陷いるとあり、抑そも從順とは腹に背るものが敢て好て順ふの謂なり、止を得ず强ものに卑屈するは決して從順の

德にあらず、故に吾人は女の優ならんことを要す、故に亦其の有爲有力にして而して能く忍耐温厚ならんことを要す。左らば決局するに、高等敎育の害あるを見ず。此他辨難すべきの議論頗ぶる多しと云へども吾人は先づ以上を以て暫らく筆を擱くべし、抑そも吾人は豈に女子敎育の事を深く知るものならんや、只だ女子敎育の事の今に於て決して深く知了しがたきことを知るのみ、之を以て希望する所ろは、極めて公平にして「自然」の導く所ろに行かんとするにあり極めて温順にして「自然」の敎ゆる所ろに進まんとするにあり、今に於ては此他に良敎師なきを知る、西洋にも未だあらず況んや我日本に於てをや、此時に當り吾れ能く中正の敎育主義を知ると云ふ者を見れば抱腹の極に堪ず、蓋し今の女子をして數千年來の習慣に由りて得たる惡習を去らしめ、今后に正當に得べき方向に進歩せしめ、以て其の尤も健全尤も安固尤も高尚なるの地位に到着せしめんとするには、吾人たゞ否決的に人類の愚考を制しつゝ、鋭敏に着實に謹勉に而して尤も多く公平無私忠實に彼のチーテユアなる上帝の大能の手の指示する所ろに行くの外かなし、ミル氏曰く「自然」が能く其の目的を達し得るかを心配して、敢て「自然」の爲に人の心配を加ふるは全然不必要なる自殺に均しゝ　ミル氏の夫人曰く、人なり驕然として他人の爲に其適當なる領分を之れ也と定むるは宜しからず、凡そ惣ての人間個々に適當なる領分とは、即はち其人が到着し得べき最大最高の地なり、而して其の最大最高の何者たるやは彼の人をして自由に撰擇せしめずんば知ることを得ずと。嗚呼天下の男學士諸君請ふ少しく其の氣儘と高慢の鼻とを小さくせよ。

論説

○鶴龜松竹梅

鈴木弘恭

右は去る一日成立學舍女子部の卒業証書授與式に於て演述せられたるを筆記せしものなり。

日本では普通の習俗にて兎角めでたいといふと鶴龜松竹とか松竹梅とか申しますから本日は鶴龜松竹梅といふ題にて祝辭を述べましやう則ち此位めでたい事はありますまい。先第一番に鶴龜より申せば皆さんも大てい御存知ならんが鶴龜は古へより長壽なる者として置から愛度もの、最第一としましたが先頃の新聞に理學士の某の說に鶴はさほどに長壽の鳥に非ず鶴よりも何とか云鳥が長壽なりとて其表を掲て委しく示されたりかやうな新說が出ては鶴は是を聞て甚失望する

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

でありますから私が一寸辨護人となりて申しますが鶴はやはりめでたき鳥としてよろしいなぜといへば鶴は最もよく子を愛育する鳥なりと古へより云てある萬葉集や源氏物語や土佐日記十六夜日記などにも子を思ふ夜の鶴など云とが見えてあるから子を愛すといふ一事に於てめでたき鳥として決て苦しくない則ち鶴九皐に鳴て聲天にありと云も子を思て尤も切に鳴く時の聲であります。

偖此ツルといふ名は鳴く聲より付たる名詞なりと既に申て置ますが古くはツルとはいハずタヅと申しました其證は「天津たづむら」「たつがねすなり」「蘆べをさしてたづ鳴渡る」の類此外古歌に例多くありさてタヅのタはイタなりイタは甚といふ義なりイタのイを省きてタといふ例は、イタフル、といふをタフル、と云ひ　イタイ〱と　いふをタイタイと云ひ　イタユタヒといふをタユタヒと云ひ　イタナビキといふをタナビキと云ひ　イタチカラといふをタチカラと云ふ類なり。

神名にタチカラ雄命と云があるを漢字にて手力とかくより手に力のありし神なりと思ふは非なり手ばかり力のある人はありはしません又人をたばかるなどいふタバカリと云詞も手で計るといふわけではないイタハカリの義にて甚計といふ意タチカラヲノ命は甚だ力がありて強き神といふ意であります。

タツのツは威稜などのツにて威稜又靈の義なり偖イツをイチとも云ひイを省きてチともいふ即ちチハヤブル神といふは威稜のハヤル神と云ことなり鳥類中に鶴は第一の靈鳥といふ義にてタツと呼べるなり又鱗蟲中にては龍は第一威稜なる者なれば龍のこともタツといふなり依て鳥の方ハ濁音にタヅと呼び龍の方は清音にタツと呼びて假りに區別しましたが其義は同じことであります。

龜は長壽を以て愛らるゝ事勿論なれどもカメと云ふ名義ハカミと同言にてカミもカメも何れもイカクシビといふとなりイカはいかめしきいかつきなどのイカなりクシビは俗に云ふフシギの意なり依てカミカメを今の俗言に譯して云へばゴウセイニフシギといふ義なりさてイカのイを省きてカといふ例は只今申したイタのイを省くと同格なり是はイばかりではなく五十音のうちあ行の音は皆省きても云はるゝ格です故にこのカミといふ言も種々の物に名付たり神社などいふカミは人類中ゴウセイニフシギといふ義なり龜のカメは介類中ゴウセイニフシギといふ義なりまた古事記にある闇淤加美神といふは大蛇の事なり是を

オロチとも(八股乃大蛇)いふれ大ナルフシギの義にて同意之また萬葉集にある大口眞神原といふ眞神とは狼の事之今も地方によりてオホカミともオホカメともいふあり。(未完)

批評

○紅葉山人の「風流京人形」　不知菴主人

硯友社に嶄然屹立するは紅葉山人にして我樂多文庫に燦然光を放つは「風流京人形」なり。京人形は美なる哉、艶なる哉、惜むらくは活動の精神に乏し。畢竟著者が一フールを主人公としたる話柄に「京人形」と題するも是が爲にして評者が此小說を目して京人形となすも亦是が爲のみ。

紅葉山人の筆は縱橫無盡なり。西鶴其碩を玩味せざれば如此き地の文を作る能はず、京傳三馬の神髓を得ざれば斯くまで詞に自在なる能はず。殊に一種の雅俗折衷躰を以て微細に情致を描寫せし巧妙に到つては獨り硯友社に屹立するのみならず江湖幾多の小說家皆背後に瞠若たらざるを得ず、第八回の如きは唯文庫に燦然たるのみならず紛々たる世間の小說雜誌悉く其光を失ふの感あり。然れども若し全篇より評すれば——嚴格に察る過酷に——支離滅裂と曰はんより外なし。著者が曾て「夏木立」及「眞美人」を評せしを見るに天井の隅の蜘蛛の巣を拂ふが如く徒らに字句の末に拘泥し全豹を執て是を論せず、怪しむべき哉、字句に議すべきなければ完美なる小說と曰つて可なる歟。されば此奇怪なる評者が著はしたる「京人形」に於て同樣の奇觀を呈するは元より當然にして、天井の隅に蜘蛛の巣なしと雖とも床違棚障子襖の好み勝手氣儘なれば數寄者の笑を買ふは不思議にもあらず。若し篇々個々として評すれば「京人形」は完美のものなるべけれど——若し字句に議すべきなけば全篇の脚色を問はずと曰へば「京人形」をこそ立派なる小說と云つて可なるべけれど——若し文庫紙上に於て「夏木立」及「眞美人」を評せし人にして更ま此「京人形」を評せしむれば美なり艶なりと稱揚すべけれども、如何せん首尾貫徹せず脈絡相應ぜざれば圓滿と云ひがたきを。今爰に一瑞獸を畫かんに、龍の爪と麟の角と龜の甲と鳳の翼とを共に寫せば、如何に瑞中の瑞なるとも畫をなしがたし。縱令麟蹄は龍爪の鋭に及ばずとも麟を畫くには必らず蹄たるべし。よし鳳毛は龜甲の堅に劣るとも鳳を描くには必らず毛たるべし。若し麟に爪を藹き鳳に甲を添へば誰か抱腹絶倒せざらんや。「京人形」は篇々悉く一種の妙味を供へ字句に到つては殆んど間然すべきなしと雖も是れ龍爪のみ麟角のみ龜甲のみ鳳翼のみ。個々別々に見れば極めて美なりと雖も合同して一篇となせば是を完美なる小說と云ふべからず、否——無遠慮に云へばツジツマ合はぬ極めて不完全なるものと云ふべし。余が友、美妙の「花車」及漣の「五月鯉」を評して曰く、毎篇悉く面白味なしと雖も纏りのつきたるものなりと。元より云ふ迄もなく「京人形」の手際は——中にも第六第八兩回の如きは遙に「花車」及「五月鯉」に優れども肝心なる脚色の一線通徹せざるは此絶妙好辭をして死物たらしむるに似たり。龍爪と麟角と龜甲と鳳翼とを具備するも瑞獸と目す可からざると全樣にして、余が「京人形」の作者と紅葉山人の新著に於て惜む處は即ち此一點にあり。

何が故に全篇通徹せず首尾相應ぜざると云ふや。請ふ是を說かん。此篇の主人公辰巳永代孃はフールなる事結末に於て花雪女史及滊車旅客の口より洩したれど第三の末段と第六の下を除きては絕へてフールの痕跡を止めず其言行は通常のあどなき少女のみ。此頃の才はじけたる娘の中に十八歲にしては餘りに罪なきの感あれど諦了て誰かフールたるを知らん。試に例を擧ぐれば永代の詞に

「若し植木鉢でもこはしたかもしれないヨそんなら尙早くいつてお詫をしなければ……」(第二。三十三頁)

「すまない子ー御深切に……あの犬はお隣りのかへ」(第二。四十頁)

「うんなに勉强して肺病になつてみたう御坐いますオホ、……」(第三。七十七頁)

とある如き。是等は果してフールの口より出づべき詞なるか。其他敍事の中に「習字帖を閉づるに是をふせて硯と叩く事なく墨壺の蓋するも心を配り」云々とあるは充分しとやかなる氣象を顯はしてフールとは思はれず。夫のみか二宅は辰巳の教師なるに平日教授する生徒のフールなるを知らすとは(よし永代は滊車旅客の話の如く無口なりとも)。縱令二宅は迂にして知らざるとするもフールの辰巳が隱然鬚眉の男を左右する勢力ありとは……如何にハンドサムなりとも精神の美を奪はれてなほ開化の鏡「ビクトリア」と評判あるは不審々々。

竹田菱郎も隣家に住みながら——容貌の美しさに迷ひしにもせよ物言擧動の昏かなるに氣の附ぬ事やある。アヂソンも云ひたり「賢者は自ら其痴を知れども他人是を知らず愚者は己れ其痴を悟らざるも世間忽ち評判す」。是ぞフールの實性を觀破せし言にて辰巳永代の如きは頗る描寫法を誤りたりと云ふべし。又袖は永代に反して「戀わすれ草でもなめさせたき」ものなれば戀に背きは當然なれど、井生村にて失敗の翌日——心配してまんじりともせぬ其晩方音樂さふに竹田を誘ひだせしは何故ぞ。戀の周旋をするほどの婦女なればさト辨護も出づべけれどかくてはチト前後を相違するが如し、況して筆の走りか第二に「蓮葉ならで有がたし」とあるものを。それ此の如く首尾相應ぜす……夫れのみか脈絡も通ぜず。滊村柳と云へる著者の秘書官「もしや双紙」を變化貧しと評したるが「京人形」は變化に富み過ぎたり。變化は勿論必要なれども硯友社員は是を無二と貴重し——餘ま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りに貴重して濫用するにや、先に出版せし「其美人」を讀みて此憾ありしが「京人形」を讀みて愈々其感を深くせり。篇々個々として見るも可なり、一回を二回として三回としても可なり。まさかに結末を發端とすべきにあらねど大抵は前後終尾の區別なく初より讀むも腹にて中途より讀むも判然すべし。是は讀者の爲に興味多きか將た少なきか。次に趣向の上より云へば纏のつかぬものなり。二宅は如何せしぞ、是は讀者の勝手に任すべしと著者は曰ひ給はんが。實に恐ろしき罪――よし遂ぬにもせよ――婦人の操を破らんとせし罪を犯して社會に擯斥せらるゝ事跡もなく眞心に責めらるゝ苦痛もなく大磯の無駄話に局を結ぶは讀了つて不快の念なきにあらず、是は極實に走りし罪なるがかゝる事は可成御注意あらまほし。

趣向は大抵にして次に文辭……前にも云ひし如く西鶴其頃の神髓を得たるものにて時には勢語枕草紙等の句調も見へ、一流の折衷躰中々に面白く、餘りに鍊つたる結果は一字の議すべきなけれどあまりに苦みて却て面白からざるに似たり。口善惡なきエセ男が戸隱山と評したれば何故かと尋ねけるに「紅葉ガリと申す文躰なり」と答へけるも强ちに無理ならず。評者は左までに思はねど世間の讀者は――十人が九人までは斯く申すべし。よしと思ふ評者の目にも次に引證するは餘りに珍らかに覺ゆ

流し目に見たまふ木珠。珠もし心あらば……（第二。三十頁）

これ種。どうしたものぞ。かり初にも臣下の分として主命に背く事慮外なり（中略）それ合點してかゝる些細の事拒みだてするは……加賀見山の初が文使ひ――獨鳴でも氣にかゝつてか。（第二。三十三頁）

忝じけなや――再び影も見せたまはじと思ひしにまたの御來降……珍味をさへ齎らして……嬉しの言葉をさへ取添て……慇々……茲に知ぬ宋朝の美なくとも祝鮀の佞あらば……（第四。百十二頁）

是等は殆んど詩調に近きものにして詩にあらず。メトリカルならざれども文にもあらず。知り給ふ如く馬琴は七五の句を用ひて詩文の區別を錯亂せしにまたも其轍を履み給ふとは。西鶴は此調を作らず其頃にも斯る躰なし、紅葉子誰にかぶれ給ひしぞ。兎もあれ――文體の是非は扨置き――字句には申分なし。

價かに通讀の折氣附きしを擧ぐれは

「物しづかなる虹の聲」。虹の聲を物しづかとは可笑（第一。五頁）

「必ず思出し給ふな」云々バイロンの句を讀む所直譯にしては面白からず、云ふ迄もなく直譯して詩の妙味を悟るものにあらざれば原語を其まゝ挿む方然るべし（第一。五頁）

永代が衣物に藥玉に菖蒲の伊達摸樣とあるは田舍源氏時代の好にして面白からず（第二。三十頁）

「相園のしわぶき獸の鳴くに似たり」此一句はなくもがな。（第二。三十九頁）

「眉を怒らしてつめよれば」とあり、女性に似合しからず全じくは「張放なして」さしたし。（第三。七十六頁）

井生村樓の場は夏と覺ゆるに插畫のみか本文にも「羽織の八ッ口裂け」とあり。此頃の男らしき娘にかぶれて紹の羽織でも着しものなるか、さても不思議。（第六。二百二十六頁）

「思ひ願は其まゝ杜を離れず」とあり。如何に汝に燒けたればとて亞非利加の土蠻らしく餘りに情けなし（第十。三百九十二頁）

以上はホンの小瑕瑾なれども六頁に「（上略）火のやうに炎へたつ唇か自ら密着……接吻アーッ」とあるはあられもなし。猫の戀を咏みて破門せられし人もあるに、是はまたいかな事。シカシまだしも竹田の口より出でたる言葉なれば恕すべきも、見逃しがたきは敍事中に「接吻したといふ人もなければ」云々又に「今十九世紀の戀さいつば」云ゝとある如きは――讀者は兎にかく――著者自身の品格を下すものと云ふべし。紅葉子は何故に斯る文字を好み給ふか、十四號のYes and No.にも引證するも好ましからぬ文字を列べられしは扨もしく。

或る新聞にて我樂多文庫は眞正のラブを描くものなりとて稱揚せしが如何なる點を指摘せしにや覺束なく思はる。文庫の小說は果して眞正の――純粹のラブを描きしものなるか。趣向を立てる時には少しく道德の分子を加へ給ふこと必要ならめ。道德の分子を含まざるラブは野卑猥雜にして外ヶ濱に漁る賤夫阿蘇山に狩する荒男も持つものなり。全じくは雅びなる――麗はしきラブを措き給へ、繪入新聞の續きものは望ましからず候。斯く評したれども著者の立案は恐ろしく。永代はフールなり種も二宅も竹田も皆痴愚たるを免かれず。アヂソン氏が所謂馬鹿者の極樂此「京人形」に顯はれたるは其才思恐るべし。殊に詞藻に富み情を穿つに濃やかなるは第八回を見て知らる。余は「京人形」を傑作と曰はず唯紅葉山人が才思に服す。「京人形」は號に追はれて作られしと考ふれば評するも野暮。近日の「色懺悔」こそ其本色ならめ。讀まば更に是を評せん。

叢話

○青年歎　むらさき

吹き來る誘惑の暴風。面を打つ淫邪の雨、憂苦の泥濘、險惡の坂路、四方暝々方針の孰れにあるを知らず、社會の大道を歩み、文學書岳を攀づるの艱難得て名狀すべからず、然れど

も昔日膝下にありて優情の勸告を蒙り、往日機下に慈愛の教示を受け、既に預め今日の苦あるを期せり、故山の慈母幸に兒の爲めに意を勞する勿れ、今や慘憺たるの時期漸く逝かんとす、君が熱血の祈禱に勵まされ君が温顔を追想するの慰によりて勇進の氣亦勃々たり、春天影暗く水色黒し、晴嵐の中遙かに認む天涯一片の新月、噫我死る丶を得たり浮世の一誘惑、これ實に吾が母の賜なり。

○歸雁

優香子

天涯遙かに望む一連の歸雁、汝此の陽春を捨て丶何處にか行く。爛熳たる櫻花の美は汝を止むるに足らざるか、皎々たる春月は汝の愛を引くに値なしとするか、汝何ぞ花月に對してそれ無情なるや、然れども汝は散り易きの花、缺く可きの月に對して其望みを置かず。枯蘆空しく伏して夢を堅氷に囁くの邊、白雲淡く積で万里闊然たるの所、寂々寥々として自ら人を痛ましむる光景を愛するか、汝は無情に非ざるなり、鹿鳴の夜會に美を競ふは以て汝に恥ずべく、陋巷に涙を以て孤兒寡婦を慰むるは以て汝を喜ばすべし、行けよ鴻厂、我と共に行かん嚴冬の巷激寒の野邊。

"All that I am, my mother made Me." J.Q.Adams.

○二百年前花見の雨

今を距る二百年前の頃ろ、天和と云へりし時代の上野花見は斯くありしとなん、即はち紫一本に云く、東叡山黑門より仁王門までの並木の櫻の木の下に花見衆なし松山のうち淸水の後ろに幕はしらかして見る人多し幕の多き時は三百餘り少なき時は二百あまり有り此外につれだちたる女房の上着の小袖男の羽織を辨當からげたる細引にとほして櫻の木に結び付て假の幕にして毛氈花むしろ敷て酒のむなり鳴物は鳴らず小歌淨瑠璃踊仕舞はとがむるとなし本町通り町を始め有德なるも左なきも町かたにて女房娘正月の小袖と云は仕立てず花見小袖とて成ほど手をこめ結構にだてなる物ずきにしたるを着て出るなり花よりも倘ほ見事なり花の頃は空くもりてをぼろなり晝過より雨ふる然れども傘をもさ丶ず好き小袖をすきとぬらして歸るを遊山にも又手がらとする也。

○旅のはじ（其四）

むらさき戯稿

あなかしましの群鴉‥‥

花岡さんと吉村さんの中のよいのは本當に羨しひは‥‥何の御話しか聞かして頂戴な‥‥御邪魔デモ、小芝がドーシタとかコーシタとか聞へましたよ‥‥人のうわさをし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

てサわるひ事があつたらフランクに云て下さい罪デスワ御自分は如何がと云ふに矢張かげ口をきく連中デス。我身をつめつて人のいたさを知れと云ふ事に御氣が附かないと見へマス、

アラいやヨ、あなたのとを云たのではナクツテヨ

大方ソーデショー學校中のあばれもののダトか何とか御しやつたのチー……ドーセ……イーエソーデスヨ、知て居マスヨ

ウン……昨日の教場デノ騷ぎを話して居たの、玉野先生が事をチー花岡さん

エー惡口デハないの、小芝さんの能辨には、ウエブスターもデモスゼンスも協わないつて感心して居たノ、サスがの先生も閉口シタノダもの

ダツテチー、チホ、、、誰れデモ及ばないは……本當にイヤナ吉村さんだよ、ソレダカラ戶棚で頭などを打つノダヨ、

イツ頭を打ちマシタ、サー伺ひマショー

オヤ〳〵忘れたの、山岡さんの御部屋で御茶坊主の騷ぎの時、イヤト云ふ程打つて置て、ハ、〳〵

くだらない問答、しかしこれ等が通常の會話デス女學校の

イーノヨ、私の頭を私が打たのだもの……それはソート、山岡さんは御部屋に居て……アノ人は無茶苦茶勉强ト云ふノヨ……ソシテなか〳〵强情だは平常は河田さんと大層中よしだが、試驗の時と云ふと兩方で競爭……丸デ豆をたべ過ぎたアラビヤ馬のようで、張り合ひきつて居ルノサ

山岡さん……アー山岡さんの事に付て話があるノヨ……昨日吉川さんが何處で聞て來たか私に話したノ……アノ山岡さんがチー、私共を大へん惡んデ居るつて……私の考へではお時さんが何か話したノヨ……惡まれたつて何ともないが、河田さんが話すつてサマー……ほら此間のとね、、すつかり知て居るつて……キットあの人が話したに違ひないわ

此のキツト。ダロー。違ひない。と云ふような假定の言が本物になるには困ります、これが爭の卵デス、

ソーヨ、それに違ひないワ……。イツカノホラ……(耳語)……

チ……デショー……デスモノ其筈ダワ。

チホ〳〵ソーデストモ……一つの鳥居もない燒野の御稲荷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

先生とはアノ人の事ダワ、チー花岡サン、シテ此間…
ソラなにが…あれの…あにをば…チー…
サッパリ分りません、誰れにもこの樣な言葉は…しかし妙ですある時はこの言葉をよく理解する事が出來ると見へて、平氣で應答をして居る人がありマス。耳こすりと言ふものは兎角女に多いようです、隱言をつかつたり耳こすりをするのを傍で見て居る時は…亂暴な樣ダガ…打てやりたい氣がします惡らしクッテ。
エー、あの時は本當に可笑かつたワ…波山さんの强情、三好さんの馬鹿正直、山川さんの意くじなし、木下さんの理屈、棚下しをすると隨分あるノチー
シカシ山岡の鼻高さんよりあまだイーワ…少し本デモ讀めるようになるとすぐあれだもの…ソシテ根生が大曲りに曲て居るから、一級か二級も下の者はモー自分の弟子かあんぞのようにするノダモノ、眼下に人を見下すと云ふノハあの人の事ダワ、上邊許り飾て教師の前を甘くヤッテ居るお時さんとはイー友達ダワ…あんな人は先生がドーかすればいゝノニチー
時ニかけ來ル淵澤美智子…例の如くニコ〳〵しながら、
チヨイト御免あさい皆さん…通道〳〵…明ケて頂戴よ
一寸と御美智さん何處へ行くの、また河田さんの處…
エー、ソーヨ、イラッシャイナ皆さん
イヤナ事…一寸と河田さんが何か言て居わしなくッテ…
私共の事を
イーエ、河田さんが此間も大へんに泣て、私がつまり學校を愛する事が足りないから皆さんに御氣の毒ダッテ…
ソシテ皆さんに心配を掛るからッテ…山岡さんも大層困て居てよ
ウマイ事、御美智さん、正直すぎるといけないは、用心なさいよ
何を…エ
だまかされてはいけませんト云ふノサ
イーワだまされても…おつかさんが正直にして居ろつてしゃう御つしやるし、先生もそう御しやるノデスモノ、こつちが正直ならイーワ、先は不正直デモ…
眞理です…此言葉たとへ先方が間違て居ても自分が正しければ…小女はなほも語を續ぎました
河田さんは本當にお氣の毒よ、國の御母さんが今月の十日

に御なくあんすつタノ…そして、學校に居らしつても皆さんに惡まれて…御とも達は山岡さん計デスモノアナ無遠慮、是が幼兒の實相デショー…、小供らしひ、年は年丈け今年よう／＼十五デスモノ、前後の考もありません、考へがないノデハあく餘り深く考へません…ソノ上にごく淡泊な性質デスカラ。

ヘルデル曰く女子は創造の冠なり。
ボルテア曰く女子は吾人に安息と文華と尊貴とを教ゆ。
レツシング曰く自然は女子を以て第一位に置かんとす。
ジョン、クインシー、アダムス曰く今日の我は悉く母の賜。
ラスキン曰くシエクスピアに一人の男主人なし悉是女主人。
ホイチーア曰く人間の爲めに樂園を失はせしは女なり而して之を回復せしも亦女なり。
グラツドストン曰く女は其の女らしき時に於て尤も完全す。

佳傳

〇破鏈談　みどり

第七回　鏈破れて伉儷合す。

マリーは只だ忙然として母の命に從がひけり、いよ／＼結婚の事定まりて最早何の日に嫁ぐべしとありければ、切てもの樂しみに今一と度びランゲドックの祖母の方に遊びたしと乞ひて、一週間と約し出で行きたり。

マリーが此處に來りたるは最后を極めんとてなり、昔しジーンと共に吟行しつる木影に居寄り、靜かに祈禱して神よ之より何如にせんと問けり。思ひに餘りて殆んど斷定しがたく欝々として祖母の前に到れば祖母は之を察して嚴しく勵まし、且つ婚姻は人生の極大事あることを説ひて心ならぬ縁事の決して結びがたき理由を喩したり、此に於てマリー初めて確斷し、好し一時母の心には反くとも決して彼の醫博士には嫁がじと決心したり。

翌日醫博士はマリーを訪ひ來れり、マリーは昨日の決心を告げて且つ云へるやう。

たとひ今ま君に嫁するとも、外に亦君に呈すべき心を有ち侍らず、妾わが心は只だジーンを思ふの愛にて充滿いたし候。

然るに此の博士アリソン氏は極めて大量の人にて、而も義に勇む寛仁の質ありしかば、之を聞きて大ひに感じ、卿すでに斯くあらば余は全力を盡して卿を助け、何卒して再たびジーンに添わせ申さん、夫れ迄は願くは余と結縁の約をつゞけ玉へ、切めて卿の勞を助くるの便よりともあらん、而して永久に相親しみて眞との兄妹とならんと。

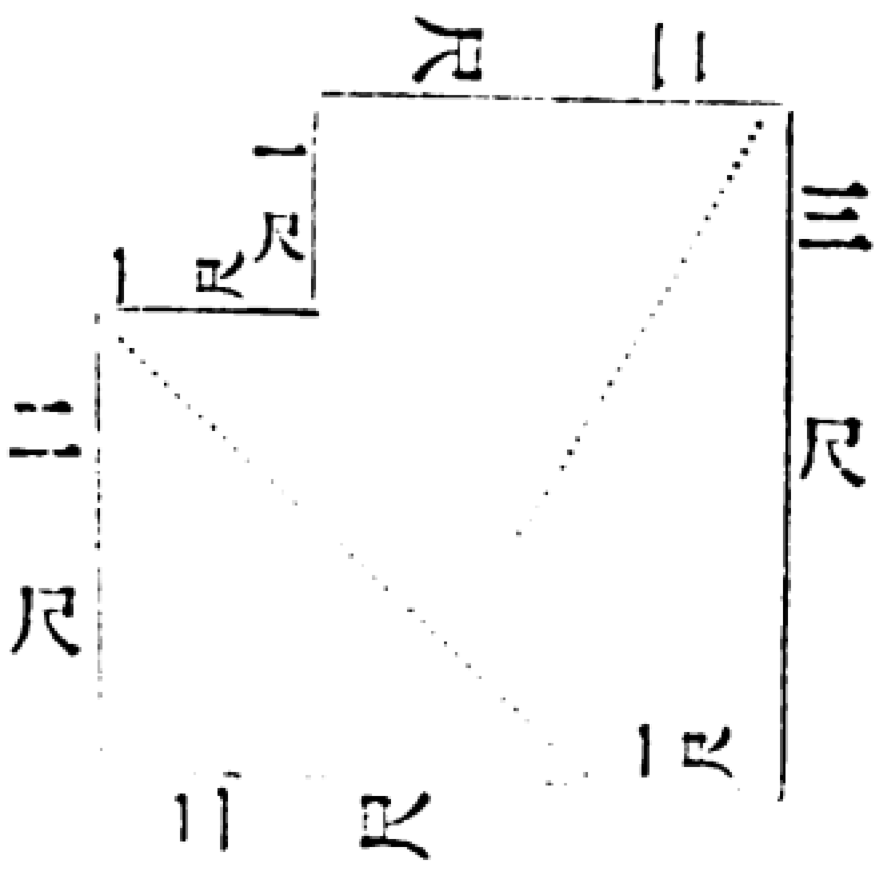
然るに此時ジーンの親戚にて某と云へるものも亦た信仰の事

によりて囚われ、一生の船推に刑せられしが、其の家族の困難名狀す可らざるほどなれば、心あるものは之を聞て慟哭したり、彼のボルテーアも之を傳聞して初めて奮然として起り立ち、云く、

吾は固よりヒウゲノットを好まず、亦勿論其信ずる所ろを信ぜず、反つて其の頑陋なるとを笑ふもの也、然れども彼等が信仰の何如に不完全不道理なるにせよ、すでに一市人として其信仰の自由を奪わるべき筈なし、政府は斯る事に迄關係して人の自由權を束縛すべきにあらず、同胞にして此の苦痛にかゝるを見れば、吾は救わざる可らず。

則はち大文章を草して新聞雜誌に投じ、論書を作りて各國の帝王に送り、或は公衆を集めて演說し、學者議員の間に遊說し、只管ら輿論を惹起して彼の暴令を全廢せしめんとせり、而して輿論は遂に睡りより起きたり。

幸わひなる哉之よりして輿論大ひに騷ぎ、彼のシーンは遂に許されたり、醫博士は之を迎へて親切に取扱ひ其の六年の苦勞を慰やすの藥を與へぬ、嗚呼マリーが喜こび如何ありけん、其母は暫らくして死しぬ、父は久しく生存して好伉儷の睦まじきを見たり、ヒウゲノットは之よりして前日の如き取扱ひを受けずなり、貞節は万困を破りて幸福に到着し、自由は荆蕀を通りて至公の城に入りぬ。(大尾)。



札幌　平野彦知子

上圖の如く布を飛び墨の通りに裁切り夫を合すれば四角に成り升からをなぐさみになされて御覽なさい

宇治拾遺内の歌　　同　　人

めくりくる春はるこさにさくさくらいくたひちりき人にとははや

右の歌の内に日本の樂器がひとつ有り升からさがーてごらんなさい

鐵砲

ある男山中にて狼に出合。こいつ弱味を見せてはなるまいさまき舌にてぐつさ尻をからげ「コレエ何だ狼だくそがあきれらアおれを誰だとおもふ恭じけなくも西塔の武藏坊辨慶樣の若檀那阪田の金時さまといふ男だ朝比奈も爲朝もみんなおれが子分だへうぬらがこはくてつまるものかといへばおほかみ「コリヤかなへぬゑらい鐵砲ジヤ。

緣遠い

八兵衛貴樣女房を持たぬかおれが知つた所に年は三十位であらふ容貌はとんだ悪い大あばたでひつすりひつぱつた顏だが其替り働く事が嫌で朝寢が好きでソシテ針なんどは手に取ると頭痛がするといふ事だ尤も根性も悪いが大酒呑で其癖喰たち上戶だがどふだ女房に持つ氣へねへかと云へば八兵衛「イヤまづそれは見あはせよふ、なかうど「ハテ困つたものだめんよふあの女は緣どない。

小説

○理想の紳士

第十一回　許しなくば話されません

月の舎しのぶ

扨て月曜日の朝なりけり、父は常もの如くに製造所へ行かれたるが、家に殘りて世間を見ざる余には萬事殆んど夢の如し、たゞ茫然として何事をも考へず時を過しつるに、既に午報を聞き、既に一時となり、又既に二時三時と成れるに、父は常になく未だ歸り來まさず。

約束に嚴重なる吾が父は、半時にても若し例刻に後るゝとあれば直ちに使を送らるゝ習ひなるに、今日に限りて何故に斯く遲かるにや、余は此頃ろ聞及ぶ一揆の事を思ひて限りなく心配し、勢は晝御膳の羹の冷むるとて切りに氣を揉みたり、遂に小奴一人を走らせて見せに遣りぬ。

小奴の歸り來りて云ふには、能登市場に行く途中に百姓ども群がり集まり、暴りに大聲上てわめき騷ぎ、只事ならぬ騷動いたす、旦那樣の御影は固より見へ申さねども、事の勢によればあか〳〵に危うきやう思はれ候ひしと云ふ、此に於てか勢も大ひに驚ろく、余は最早安んじがたく、直ちに連立ちて趨り出でたり。

嗚呼世に一揆ほど恐ろしきものはあらず、彼等は正義の爲にあらず、亦愛國の爲にもあらず、只だ食わんとして騷ぐなり、麪包を與へよ然らずば首弔りて死せんとの界ひに臨みては、最早や道理も辨別も慈悲も人情も全く消失すべし、扨ては我父の粉製造所に押迫りて亂暴するよと思はれ、心大ひに動き乍ら足は左程にも進まず、辛うじて柔皮所に至りしとき皮を切る雇ひ女に會ひぬ。すれ違ひさま召かけて聞けば、

旦那樣は存じませんが、針葉さんはたしか粉場にお出でしやう、針葉さんは大丈夫です、決して傷められはなさりますまい。

チー、襄は最早針葉さん〳〵と呼ばるゝに至りしよ、斯る危急の時にも此の一語は何如に余を喜ばしけん讀むもの宜しく推し玉へ、扨て此の邊には一揆最早散亂してあり、粉場へ趣むくの通も開けたれば、左らば亦た彼の方へ行かんと云ひたるが、心計りにて足は進まず、大ひに疲勞して其儘傍はらに積みたる皮の上に休みぬ、蓋し此れ四年前襄と共に樂しく話したるの所ろなり。

時に表てを通る足音聞こゆ、父なりやと耳を欹つれば、足踏更にシッカリとして且つ早し、更に若者らしゝ、思はず飛出

でゝ見れば

文さん、

襄、

双の手錠よりも固たく握られたり、萬喜胸に切まりて只だ襄の顔を見上げたり、襄は何よりも先づ、

お父さまは何方ですか、

知らないノ、兵隊を召びに居したと言ふものもあつたが、

左様ヂヤありますまい、左様はありますまい、私しは捜がしに行ねば成りません、サヨナラ

イヽエ、コレ襄‥‥襄

デモお父さまの許しのない内はお話しが出來ません、行かなくては成りません、サヨナラ

彼は行き去れり、余が心は悲しきうちに怒りて不平極まりたるが、余が良心は之を辨解してほと〳〵彼に感服せしめたり、嗚呼彼の如く能く義務を守り正道を踏むは少なかるべし、親あるものは反つて親に仕ふるの孝に欠きて、親なきの子が斯く迄に人の親に忠實なるよ。

襄を思ひ、父を懐ひ、危難‥‥安全‥‥大丈夫‥‥など樣々に連感し妄想しける時、父は襄と共に來り玉へり。

文さん、此方へ來て助けて下さい、

と云ふ襄と出る余とを見て一瞥せらるゝ父に、襄は早速に辨じたり、鷹揚に恥る所ろなく、

イヽエ、私し等は先刻一寸つと此處で會ひましたが、固より一二語を交した丈けです。文さん、お父さまは官に訴へやうと仰しやるが夫は實に無効でしやう、クエーカル宗徒の悲しさには助けを受るとが出來ないのだから、寧ろ御自身で粉場に行つて財産を保護する工夫を爲さいと申すところです、アナタも左樣お勸めなさい、

左樣だ、

父は苦々しく點頭づき玉へり、

實に左樣だ、

此の第二語と共に父は最早や出で行かれんとす、余は思はず引止めたるが、父の冷強なる鐵の如きお顔附を見て之を離したり、

文太、百姓等は實に馬鹿極まるじやないか、モウ二日待てば安く賣つて遣るのに、斯うなればモウ仕方がない、彼等に以後の教へを見せてやらう。

言ひも了らず出で行かる、余も從ひたり、襄は初めは制し止

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たるが終には余を助けて共に隨ひ行きぬ、裏道を通りて早くも粉塲に着き、后ろの窓を開きて二階に上りぬ、表には既に一揆押寄せ來り、石を叩きつけ、礫を投上げ、騷々として怒濤の一進一退するが如し。

寄書

○秋の夕暮　　無名子

荻の上風身にしみて哀れいやます夕まぐれ涙もろくも蓬葉にひさ村雨のはら〱さ

○夜梅　　下總下相馬郡取手驛　宮崎角二郎

梅林を月はさやけくてらせども綱根みてか花の散るなり

○夜山中を過て　　同　人

曉神よと呼べど神は答へなし只木間もる月のさやけさ

○古松を見てよめる　　牛込本村町　藤田節

色かへぬ千年の松の寂ぬるは神の御國のしるしなるらん

○雨後春月　　大阪一致女學校生徒　湯川うめ子

雨雲もはれてなごりの露むすぶ庭はゆかしきはるの夜のつき

○人つてに初花のたよりをきゝて　　同　室津かつ子

ひとつてに咲しと告るはつ花のおとづれさへぞ嬉しかりける

○春曙　　同　吉岡さだ子

もゝちゝの花のいろ香もうるはし〱にほひこうすればはるの曙

同　　大塚あい子

うら〱とうらなつかし〱野も山も霞ににほふ春のあけぼの

○つばき　　同　多木つね子

誰が家か白玉つばき咲にけりいくよかはらでさかえゆくらむ

ゆかしげに咲ややちよの玉椿はるにほこらぬいろ香なりけり

同　　同　酒井しげ子

春ぞとも志ら玉椿さきいでゝひとにほこらぬけしきとぞ見る

玉椿なごりの霜を葉にうけてはなへやちよのいろやこめけむ

やまうのとこのつれ〱なるまゝにつれ〱艸のふみどもをとりて見もてゆくにむかし見し垣根はあれはてゝつぼな交りのすみれのみとなんうつりゆく世をはかなみたる歌ありげにさこそと思ふがまゝに

同　　杉江たか子

かはりゆく夢の浮世のはかなさを知らでや人のたち憂すらん

○身まかりし友を悼みて　　同　　藤井とめ子

さく花を見捨ていにし雁が音にならひし君がかげぞかなしき

みまかりし友を思へばなぐさまず月をみれども花をみれども

○胸の鏡

○道德法律關捷疑問　　神戸下山手通七丁目二百七十二番　竹内莽子

壹　甲乙兩人旅行セシニ俄カニ大雷雨起キ天柱爲メニ折ントスルガ如キ有樣ナリ由テ甲乙先ヲ爭フテ一ノ堂宇ニ入ラントス然ルニ其堂小ニシテ二人ヲ容ルヽコト能ハザルヲ以テ甲ハ乙ヲ堂外ニ突キ出シタリ然ルニ乙ハ不幸ニシテ雷擊ノ爲メ死セリト甲ハ道德上ノ制裁アリヤ如何

二　甲乙ノ男女自ラ婚姻ノ豫約ヲ爲シ（野合上ノ豫約ニアラズ）置キタリ其中一方ハ前約ヲ確ク守リ妻ラズ（男子）或ハ嫁セズ（女子）然ルニ一方ハ互ニ盟約セシニモ拘ハラズ或事故ニ由リテ（違約スルトセザルトハ違約者自己ノ意中ニ在リ）違約セリト然ルトキハ違約者ハ道德上ノ罪アルカ

參　期滿効ニ由リテ義務ヲ免レタル負債者其義務アルヲ知リナガラ法律上ノ强制ヲ受クルコトナキヲ以テ辨濟セザルトキハ道德上ノ制裁アリヤ如何

四　甲某友人ノ大病ニ罹ルヲ視テ大ニ憂ヒ乙ヨリ良藥ナリト聞キタル毒藥ヲ買ヒ之レヲ服用セシメタルニ病者ハ其藥ノ激烈ナルガ爲メニ死セリト甲某ハ道德上ノ罪アルカ

五　甲河豕ノ買ヒ之レヲ食セシニ其味ノ意外ニ美ナルヲ以テ之レヲ友人ニ食ハシメタリ友人ハ其河豕ナルヲ知ラズシテ之レヲ食イ中毒セリ然レ圧幸ニシテ死ニ至ラズト雖圧一ケ月ノ間休業セリ然ルトキハ甲ハ道德上ノミノ制裁アルモノナルヤ將タ民事及ヒ刑法上ノ制裁ヲ免レザルヤ抑モ道德上ニ於テモ其他ニ於テモ制裁ナキヤ

注意甲ハ河豕ノ法律上ノ禁物タルヲ知リ居レリ

以上ハ近頃妾ガ疑チ胸裡ニ起セシモノナルガ幸ニ賢姉妹ノ垂教ヲ賜ハンコトヲ又タ女學雜誌社主公幸ニ一月ノ欄内ニ登載シ賜ハンコトヲ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新報 （此の欄内自由に轉載を許す）

○「國の基」第一號

高らく〳〵との評判ありつる「國の基」第一號出でたり、謹んで之を拜見するに、主筆矢田部良吉君は云く、

我輩の目的は決して他の雜誌と競爭せんとするにあらず、又異主義の人を攻撃せんとするにあらず、唯だ甚だ穩かに且つおとなしく同主義の人の論說文章を輯錄して聊か世に益せんと欲するに在るのみ、

極めておとなしき中條なる哉、然れども眞理は攻守辨難の間より發す、苟くも吾れ未だ終極の大中至正に達せずと思ふものは先づ他と議論せざる可らず討論せざる可らず、然らずんば到底禪坊のウヌぼれ論のみにて滿足すらん。左れど主幹能勢榮君は云く、

我邦の道德美術風俗習慣も次第〳〵に歐米風に變遷すること、勢ひ已む可らざるとにして、なさけなくも爲ん方なきとなり。到底變遷すると免る可らざるとして、只其變遷の度合に至りて之を急にすると之を緩にするとの異を生ずるのみなり。而して我國固有の道德と美術との最善良なる者は成丈之を保存するとせざるとにあり、吾人の所云る中正の旨義とは此の點を指すなり。

抑そも變遷を急にするか緩にするかの一つが能く中正たるを得る乎、既に最善良と定りたる道德美術を只成丈け保存するが能く中正たるを得る乎。嗚呼吾人は急にもせず緩にもせずして尤も包圍に適合して進まんとを欲す、既に最善良と定まりしものは最勉最强して終に至る迄で保存せざれば止まじ、之れ吾人が今日に於て中正と覺悟して盡力する所ろ、國基記者と考を異にして殘念ながら過激なり宗教くさしと擯斥さるゝ所ろならん、而して其の何れの可なるやはたゞ大道の能く知るあるのみ。

○女學生試驗方改正

「東京高等女學校に於ては今般假りに定時の試驗を廢して日課評點を以て之に代へ逐つて其の効力判然たるに至らば定めて該校の試驗法とせらるゝよし」。近來此校の敎育方に注意するのいよ〳〵懇切なる實に賀すべき哉。抑そも器械的試驗方の學生に無效有害たるとは夙に學論あり、況んや彼の競爭し易き感騷し易き器械的に流れ易き暗誦鸚鵡的に走り易き女學生に於ては、復習的試驗の無効にして害多きと更に一層なり。蓋し五六年間に於て敎ゆる學問は知たるもの也、之を悉く覺え

させたとて何程の効あらんや、學校は只學生に畢生間の美ある習慣と實用すべき學力の下地とを與ふるものなるに、今の如き試驗法を以ては決して此の良果を出す能はじ、然るに高等女學校の役員諸君が今日此に注意せられたるは實に祝すべし。吾人常に論ず、競爭の爲に學を爲すは未だ上乘の學者にあらず、然れども之れ彼の競爭もせざる勉强もせざる怠けものに優ると万々、たゞ能く學に樂しみ義務に感じ獨り山中に在るも尙ほ怠らざるものを以て最上と爲すべし、然るに女流は學校を出るのち多くは無競爭の地に入るものあるが故に素と競爭を以て初めて學問するの習慣を得たる女學生は卒業后最早眠るの外なからん、此一事尤も男子教育に異るの着眼點なりと、而して、今や世上に同意見の人增加するを見る、吾人何んぞ祝賀せざるを得ん。

○大禮中の最大禮

本月三日小笠原家に於て大禮の復習あり、吾人も亦た席末に列して大禮中の最大禮結婚の式畧を見たり、其次第左の如し

床掛物　三幅對にても二幅對にても　目出度掛樣　長熨斗　三方居

客居に
聟　媒女着座以後着座之事
主居に
媒女　聟着座以前着座之事

聟着座候さ愛敬之守媒女より妙劑請取花盃に居候て聟に見せ直に床の折釘に掛置候事若床に折釘無之候は花盃之儘床柱之際に居置べし扨床に有之長熨斗之三方をうさ兩手にて引寄前のさまより左りの手をいれ其手に居右の手にて三方の右の方のふちの中程を持候て少しゝりぞき左りへ廻り媒女へ居次に聟ヨ居直に元之所へ直し置元座に着

草引渡三獻

一三ツ盃土器三方の持やう口祝長熨斗三方の持樣さ同じ事ヨて候すへ樣は居へ起所より少し手前之方ヨて右の足をそとふみ出し候てひざまづき床前上座の方少し右の方へ寄候て居申候立候時も少しゝりぞき左り廻り立申候

一星の物三方持樣すへ樣共に前さおなじ事にて候置所は三つ盃土器三方の左りの方へ並置立候時の樣子も前の通りにて候

一引渡三獻居渡膳の持樣前さおなじ事にて候繪圖面の如く初獻之膳二獻之膳三獻之膳共に三膳居渡居候箸は聟媒女とすへ申候膳部〆候時の類も同じとにて候したみには吸物椀の盃を取右膳の手前の方にあをむけこれを置略には是を用申候膳を居しりぞき候節も左りへ廻り立申候

一銚子提子出

銚子の持樣は右の大ゆびを柄のかねをはづし其外のゆびの揃候樣に持左りの手は銚子の鎹すりの所へ添て持候提子の持樣は右の手にてつるの中程を持左りの手は提子の底へそと添て持申候銚子は先提子は跡より出敷居際に一寸ひざまづき本酌は其儘立出上座に有之候三つ盃土器三方の前へ歩行右の足をうとふみ出しひざまづき先右の方に銚子を置三つ盃土器の三方兩手にて手前へ引寄せ左りの手にて三方の手前のふちの眞中をしかと持右手にて銚子をもち候て左りへ廻り媒女の前へ持行先銚子を右の脇に置右手をも三方に添て媒女へ居申候扨銚子を持扣へし此時介添三つ土器の上の土器をさり媒女に渡し酌一度もり二度加へ申候加へ樣は一度盛候迄次酌立より本酌の左の方にて加へ申候夫れより本酌媒女の盃へ二獻加へ媒女三獻濟候と介添右土器を受取したみ候て元の如く三方に置候と本酌銚子を右の脇に置兩手にて三つ土器の三方を引寄せ前の如く持候て左りへ廻り聟へ居聟右ぬれ候土器にて一度盛二度加へやう前の如くに候さて銚子を右の脇に置ぬれ候上の土器を三つ土器の下へ組替へ前の如く銚子をもち扣へし聟組替候上の土器をさり一度もり二度加へ樣前の通りさて左りへ廻り其かはらけを媒女の前へ持行前の如く介添土器を取媒女へ渡一度もり二度加へ候て右土器を又三つ土器の下へ組替銚子をもちて扣居へし妙添組替候上の土器をとり媒女へわたし一度盛二度加へ候て左りへ廻り其土器を聟の前へ持行一度もり二度加へ候て納申候聟土器を三方に置候と前の如く右之脇に銚子を置三ッ土器の三方を兩手にて引寄左の手にて三方の手前のふちの眞中をもち右の手にて銚子を持ち左へ廻り上座へ持行最初の如く三方を直し置候て銚子を持ち左へ廻

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り下座の方敷居際迄引候てひざまづき加へさ並居兩酌共一度に立つて本酌左へ廻りはじめ加の居候所へ本酌着座加へは本酌につゞき同樣に跡に附左り廻りにして初本酌居候所に座して見合加へより引申候さて三つ土器の三方星の物をさげ次に三獻之膳二獻の膳初獻の膳迄此順に下け申候扨介添緣女のわたを取聟緣女一禮有之聟入座後緣女入座の事

千秋萬歲

之にて凡そ一時間半も懸りたり、實際之にても成るまじ、左りとて亦純然たる西洋風の式も宜しからず、何とか工夫あらまほしきと也。

○十二年後の米國女權世界

二月十七日發行のボストン、サンデー、グローブ新聞は、而白き工夫にて一種の未來新聞を出版したり、即はち今後十二年に當る一千九百〇一年二月十七日の發行と題して、其時に於ける女權擴張の驚ろくべくわらんとを想像させ、新聞紙の名をも女子サンデーグローブと改め、第一葉に女性の大統領其他諸々の女性大臣の肖像を掲げたり、中にも當年に至り登位したるてふ新大統領ヘンリッタゼチヂ女史とは何人を指すや知らざれども、彼のウイラード、スタントン、リバモーア、ホー、ルシーストーン、等の現存女丈夫方は悉く內閣に列したりと見へぬ、而して新大統領の初回演說には、新たに家政省と云へる一省を設け無論女政事家を以て其の大臣となし、其他、女性に同一の權を與へたるとは之れ吾黨の希望の最後にあらずして寧ろ其の第一着手なる事、文官には男女を同樣に使用すべき事、婚姻離婚の法律は男女に對して同等に制すべき事、母親が子供に於ける權利の事、女子財產の事、女子に自由に職業を開くと、男女ともに賃金を同くする事等に付て演述したり」。吾人一讀して思はず快笑したり、然れども之れ必らずしも痴人の夢語にはあらずと信ず。

○ワルダイエル氏婦人の說

獨逸國萬有學及醫學第六十一年會の總會に於て、伯林のプロフェソル、ワルダイエル氏は醫學修業及婦人の說と題する有益の演說を爲したり、蓋し氏は主に萬有學の上より論じたるが、其第一段歷史上の總論に於ては太古及び中古に婦人が美術學術に秀で又政權兵馬の權を握る等の機會ありしと云ふの誤を辨じ、一千八百七十年來始めて婦人の醫學を專攻するもの現われたる事魯國に於ては其修業の不成功なりし事を說き且つ婦人が醫籍に入るは全社會の爲に忌むべき所ろなりと論じ、又必しも婦人の精神が劣れりとは云はざるも數千年來の實驗より鑑みれば學術及美術を進步催促せしむる者は主として男子なりし故に學術の利益を計ものは必ずや從來開明國人種の行ひたる如く醫學を以て終始男子の主ざる所とすべしと

希望し、婦人が男子の長ずる醫學に進入するは婦人自身の爲にも得策に非ず後遂に競爭して男子に負け退化すべし特に人類に兩性あるは開化を進歩せしむる最大必要の原子にして開化も亦た二個不等の兩側より成るべしと主張し、遂に現今の如く婦人の醫學專修に於ける熱望を保助することを諫止したり。要するにワルダイエル氏は女性は醫師たる可らずと言はず、之只だ女性の不長所なるが故に寧ろ其長所に行て男女相ひ尊敬するの道を開くべしと云へり。（右演説筆記は細かに中外醫事新報二三兩月分の數號に出づ）因に云く、ドクトル、シヤルコール氏は此頃如此く論ず、即はち婦人をして醫術の業を執らしむべきは只だ女子及び小兒の疾病に限るべし是れ實に婦人が職業として出來べき境界なるものなりと。

○養育院慈善會　各貴夫人には去る八日上野公園內華族會館に集合して第三回慈善會の手都合及び持場等を相談せられたる由。

○女子師範學校卒業生　女子小學師範學校にて當期に卒業證書を受領せられたる諸子は左の如し

埼玉縣平民　諸井くま子　鳥取縣士族　木村すゞ子　長崎縣士族　小澤志か子
鹿島縣士族　森永さよ子

○愛知郡婦人會　尾州熱田驛は東海道の咽喉にて名古屋に連接して頗る繁盛の地なれども婦人の事に至りては頓と聞くこともなかりしが此度該地の鈴木りつ、南部つげ兩子が發起となり愛知郡婦人會なるものを組織せしに之に賛成するも者も多く會員の數も既に四十餘名に及びたる由。

○鹽津女學校　京都御幸町二條下る鹽津私立女學校にては去る三十日第二回紀元式並に全科卒業及修業證書授與式を執行せり即ち卒業せられたる人々は左の如し

鹽津しげ子、西田小いよ子、柿本さゝ子、高橋たゞ江子、林うめ子、喜多山うめ子、

○婦人の海外行旅券數　神奈川縣に於て本年一月より三月まで內國婦人に海外旅券を付與せしは總計五十名にして今之を區別すれば布哇國三十名米國十二名英領加奈陀四名英國二名香港二名なり又同月間に歸朝を届出て旅券を返納せしは合計四十五名にして內布哇より三十九名米國より二名清國より三名英國より一名なるよし。

○大坂私立女學校　去る明治十六年十一月大三輪長兵衞氏の創立せられたる大坂私立女學校は今度都合により閉校する由にて現在の生徒は悉皆大坂府立高等女學校に入學せしむるさ云ふ。

○結婚離婚の統計　昨廿一年中滋賀縣に於ける結婚離婚の統計を開くに結婚は四千六百九十二人、離婚は千百四十六人にして出產は男女を合せ二萬千六百六十人にして內千四百十八人は私生兒なりさ云ふ。

○三重私立女學校　は生徒の學業手藝共に著しく進歩せしも元來有志者の義捐と僅々の授業料とに資れるものにて基礎甚た固からざるより有志者は深く之を憂ひ本年に至り三重女學振起會なるものを起し資金を募集し之が維持法に盡力せらるゝ由。

○京都婦人慈善會　は去る六日午后一時より京都盲啞院に於て開會し醫學士足立健三郎氏が前會に引續き姙婦生養法を演ぜられたる由。

○取消　前號の紙上に婦人衞生會總集會さ題せし一項は無根の事に付き取消す。

外報

（此欄內自由に轉載を許す）

○デムマーク　デムマークの國會にては去年十一月六日スタムプ男爵婦人の建議により娼妓全廢の事を討論したり。

○ウイラード孃の著書　前號にも記したるが題名は「五十年間追懷記一米婦人の自叙傳」と云ひ三月一日に出版されし由。

○コンス孃市參事會員となるロンドンにては既にコブデン孃及びサンダルスト女史が學務委員に撰擧せられたるを大ひに女權進歩の一徵となりたるとなるが此度は市參事會の役員の一人として著名の慈善家コンス孃さ云へるが撰擧せられたり、之れは前よりも一層勢大なる進歩なり。

○米國婦人協會　合衆國婦人の組織する協會の數は四十八にて會員の現員は五十萬人最も勢力ある一大協會は婦人禁酒會にて會員は二十一萬人ありと云ふ。

○二千五百弗　米國婦人禁酒會の第十五紀年大會を同國ニューヨーク府「チペラハウス」に開きたる摸様は都て本紙上に記載せしが近着のヴアース新聞に同會場なる「コスモポリタンヲペラハウス」一日の借賃五百弗にて五日に二千五百弗を支拂ひたりと云ふ。

小供談

本號余白に乏しく此の欄を省く

○百人一首講義

第十回

鈴木弘恭述

大中臣能宣朝臣

能宣は。天兒屋根命の後裔にて。伊勢祭主賴基の男也。八雲御抄に。天兒屋根命より廿八代正六位上輔道の孫。神祇大副祭主賴基の子也とあります。後撰集の作者梨壺五人の一人にて。詠歌に名高かりし人なり。拾芥抄に。正暦二年八月九日卒七十三云々とあり。村上冷泉圓融天皇の頃の人であります。

みかきもり衛士の燒火のよるはもえてひるは消えつゝものをこそおもへ

此の歌は。詞花集の戀上に載せて。題しらずとあります。

○みかきもりは。内裏の御垣を守る者にて。即ち衛士の職掌也○衛士とは。左衞門の下につかふ士也。左衞門は。外衛の御垣を守る役也。夜は火を燒て守る故に衛士の燒火のといへる也。さて燒火のといふのはの如くの意にて。燒火の如くといふ義也○よるはもえて。是をよるはとよみては文字餘れりとて。よはと讀む說もあれど。やはり字餘りによむべし。もえては。もの思ひの切なるは火の燃るが如く心の鎭まらぬものなればしかいふ也。又おもひといふを火にかけて云ふより。其の緣にて燃る消る燋がすなどもいふ也○消えつゝは。思ひけつとにて人目をつゝみて思ふさまを見せぬと也。然れども心中は却てくるしき也○一首の意は。我戀は内裡の御垣を守る衛士の燒く火の如く夜は思ひに燃え。晝は人めをつゝみて思ひけちつ思ひけちつこらへてあれども。心はなほ苦しくて物をキット思ふがヤアと也

○語格は。一段切れの歌にて。物をこそのこそが指辭にて思へといふ詞にて結ひたる格であります。

藤原義孝

義孝は。伊尹公の三男也。八雲御抄に。從五位下春宮亮とあり。作者部類に。天延二年九月十六日卒と見えたり。義孝右少將に任ぜられし時。兄擧賢も少將たりしかば。擧賢を前少將と號し。義孝を後少將と號したり。村上冷泉圓融天皇の頃の人であります。

君がためをしからざりしいのちさへながくもがなとおもひけるかな

此の歌は。後拾遺集戀部に載せて。詞書に。女のもとよりかへりてつかはしけるとありますが。是は後朝の歌であり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ましやう〇君がため。此の君は女を指て君といへる也。俗にソナタなど云に同じ〇いのちさへ。さへは俗に云マデ也。命マデといふと也〇ながくもがな。もがなは願ひの意を含めてある詞也。ながくもがなは。長くてアリタイモノヂヤといふと也〇けるかな。さまぐ\の說もあれど別に變りたる意なし。俗にテキタヂヤナアといふ意也。則ち思ひけるかなは。思ツテ來タヂヤナアと解すべし〇一首の意は。これまでは。命にかへてもそなたに逢はんと思ひて。君の爲には少しも惜しくあらざりし命であつたが。今かく逢てみると又愛情に引れて。却てその命がながくありたいものヂヤと思ふやうになつてきたヂヤナアと也。能く愛戀の眞情を述べたる歌也〇語格は。一段切れの歌にて。徒の結びの格なれば。指辭なくして。思ひけるかなといふかなにて結びたるのであります。

藤原實方朝臣

實方は。定時の男也。正四位下右中將たりしが故ありて陸奥守に任ぜられ卒せり。八雲御抄。作者部類には。長德四年十二月任國にて卒云云とあり。藤原氏系圖には。長保元年正月廿六日於ニ任國陸奥一卒之由閏三月到來云云と見たり。父定時も歌道に於て名譽の人でありましたが。その子なれば實方も早くより歌の聞えありし人にて。一條天皇の朝の人でありました。

かくとだにえやはいぶきのさしも草さしもしらじなもゆるおもひを

此の歌も。後拾遺集戀部に載せてある歌であります〇かくとだに。たには俗云デモ也。かくあるとでもといふと也〇えやは。えは俗ヤウ也。やはは俗カイヤア也。ヤウイハウカイヤアと云義也〇いぶきは。地名也。伊吹山とて近江と美濃との國堺にある名高き山也。此のいふと云ふを人にものいはんとするいふと云ふ言にかけていはれたる也〇さしも草は。艾草とかけり此の山に多く生して名物也とぞ。又させも草ともいへり。下のさしもといふ詞へ語路にてつゞけんがために此所にさしも草を取り込めたる也〇さしもは。俗サヤウニソレマア也〇しらじなは。知ルマイナア也〇もゆるおもひは。思ふことの切なるを。草の萌出るにいひかけてかくいへる也〇一首の意は。我が心はかやうであるとてもヤウイハウカマア。伊吹山の艾草ではないが。我胸の切ある燃ゆる思ひをサヤウニソレマア知ルマイナアと也

化學とは何ぞ

るものあり、又た吾儕の身躰は吾人の穿つ靴や着る衣服の如く日々耗り減らされ居るもののゆえ其減るだけ新規のものを以て補充を付く、唯だ衣服や靴は生き物にあらざるゆえ時々損所を繕ろい愈益にたゝなくなれば新しいものと取換ることが出來る、然し吾人の身躰は生き物なれば中々繕ひ直しなどは勿論出來ぬ譯ゆえ別に一の手段ありて丁度火をもやすに薪木をくべ植物を枯さぬ樣に水を漑ぐと同じ仕掛にて吾人の身躰の日々に消耗するを防ぐなり、即ち吾人の三度の食事は右の薪木や水の如し、吾人は此食事に依つて吾人の生命を支持することを得、そしてその食物の中に含み居るものは形や見掛こそ違へ丁度吾人の手足骨筋肉血等と其成分は同じものなり。

化學と申す學問は地球上にありとあらゆる物を分析し、又は調合しなどしてそのものは何々と云ふ元素から成り立ち居るものなるかを、吾人に知らしむる學問なり、此學問の御蔭を以て吾人は何と申す食物は何より成り、又た何と云ふ品物は容易く肉になるかなどゝ申すことを知り明めることを得るなり。

躰溫のこと

汝方のよく御存じの通り誰でも食物が不足であるか病氣に罹り食氣の進まぬときは日に増し其人は痩せ衰へる計なり、されば汝方は食物の中には何か吾人の肉になるべきものを含み居り吾人の痩せ衰へるのを防ぐならんと推諒なさるべし、前の章にも申せし如く血は身躰一面に巡りて肉にあるべきものを全身に送り、毎日耗り減らさるゝ部分を補ひ居るが、血は此外に吾人になくて叶わぬものをもう一つ與ふそれは熱なり之を躰溫と名く、吾人が極寒にも溫きを得るは血が熱を與ふるからなり、若し吾人の身躰に固有の熱がなかりしならば如何ほど澤山の火にあたり毛の衣を重ね着しても些つとも心地よきものにはあらず。

サテ右の如き次第なれば、食物の中には吾人の身躰に熱を與ふるものと肉になるものと二種あることは申すまでもなく御分りならん、此ことに就き學者の說をきくに、凡そ一人前の人間は肉になるべき

骨

鹽

水は躰の三分の二を作る

食物と熱を與ふる食物を一と二の割合ぐらいで毎日取らねばならぬとのことなり、即ち熱を與ふる食物は丁度肉になるべき食物の二倍だけ要る譯合なり、(何が熱を與ふる食物にて何が肉になる食物なるかは後に表にて示すべし)。

熱を與ふる食物、並に肉となるべき食物は孰れも鳥獸等凡て動物、又は草木に生ずる果、其根或は其葉とか凡て植物より取れるもの多けれども、茲に肉でもなく熱でもなく吾人の身躰の柱梁とも申すべき骨になるべき食物は重に礦物なり、なぜと申すに骨の成分は重に鑛物なれば其れを補ふにはやはり同じ礦物を要する次第なりサテ此礦物は色々の食物の成分に混じて吾人の躰内に入り込み來たることなるが其中にて礦物なりにて食用になるもの唯一つあり、即ち鹽なり、鹽は身躰の健康を保つに欠く可らざるものにて之なくては殆んど立ち行き難きほどなり、吾人の身躰は其三分の二は水にて出來居ると申さば驚かるゝ方もあらんかと存すれど實際そふなり、されば吾人は日々餘程の

乳

水を食物に混ぜて取ること肝要なり、て、其れは何によりて身躰に入り來るやと尋ぬるに、第一は食物の中にありて食物と共に入り來る、或る學者の云はるゝに西洋人の常食とするパンの過半は水にて鷄卵も其重の四分の三は水にて肉類も同樣なりと、又た生の野菜菓物或は野菜の根のたぐいは何多分の水を含み居る、然し小麥又は其他の穀類には水の分量餘程少なし。

人身に取つて必要欠く可らざる食物に三種類あり、今悉しく申す必要なけれども、此三種のものは唯一の食物中に含み居ること甚だ稀なり、一の食物は此を充分含有するも他を欠くと云ふ具合なるが、茲に凡て右三種類のものを含有するもの唯一あり、即ち乳なり人間の乳と牛、野羊などの乳の別なく、凡そ乳と申すものは小兒には至極適したる食物なり、赤兒などは生れて十二ヶ月の間は乳の外決して何をも與ふ可らず、然るに時々他の食物にても軟かなれば宜しからん大事なかるへしなどゝ申して、一年も經ぬ赤兒に與ふるは大なる誤謬なり

四性の複合

ナポレオン一世

第四　四性の複合

多血膽汁頭大無色液質の複性　此複性は頭腦の形狀大小共に純粹の頭大質と同じけれども後者に在りては後腦小さけれども此性に在ては大なり、且つ此性は純粹の頭大質に比すれば頭腦、耳の邊に餘程よく發達せり、三性の複合の其三其四に於けるよりも頭部の見掛シッカリとして整へり、前二の複性に於ては此性と同じく其額は高く廣けれども此性ほど廣からず、然し上部のひろがり方は前二性の方多し、前腦と額と相分るゝ邊り前の二性に於ける程廣からざるも横に長し、顏色は種々なり或は深く黒味を帶ぶるもあり、此性の肌膚の色、毛色などは多血頭大膽汁の複性と相似たり、唯此性の方更にユッタリとして活力多く刺激され易く頭も躰も更に整頓せるのみ、此性には隨分下等の人物なしともせざれども大事業をなすに適せる性と見ゆ、彼の一時歐洲を聳動せしナポレオン第一世も此性の人なりし。

此性の誠に都合よく釣合ひたるときは多血質二割五分、膽汁質二割五分、頭大質二割五分、無色液質二割五分の割合となる、則ち活質不活質等分の性と申すべし、左れば此性の人は何でも或る一の性ばかり持ツ人と婚するを可とす、博士パウエル氏は揚言して曰く、ナポレオン第一世と其后ジョセフインとは一見したるときは餘程性の異なりたる如くなれども、翁の方は身躰ユタカにして總ての性を等分に所有し居たりしゆえに一半は活質にして他の一半は不活質なりし、然るに其后たるジョセフインは一躰痩がたにて頭大質と膽汁質と等分に調合されてありし人なりし、則ち活質五分不活質五分の性にして夫妻同性とも申すべきものなりしゆえ其結菓や双方の不折合となれり、第二の后は多血膽汁頭大質にして少しも無色液のなき人なりし故翁と其身躰の組織に幾分の差あり、幾分か合性の原理に適ひ居たりければ婚後幾ばくならずして一男を擧げたり、然し夫妻は始めより充分の合性と申し難かりし故か其子瘰癧性の痾に罹りて夭死せり、實に總ての性の誠に程よく調合された

奈翁と其后

英雄賢兒なき理

るより大人英傑の士を生ずること少なからざれども、右性の誠によく釣合ひたる大人英傑自身は合性の事々不注意なる所より不適當の配偶を得ること尠からず、其間に生れたる兒に鈍物を出すこと屢々あり、されば英雄賢兒なしとは殆んど通用の諺ともなり居るくらいなり、博士パウェル君はアレキサンダー大帝及びシーザーを此複性の人なりと云へり。

合性に注意すべし

第六　合性に注意すべきこと

生理學を專門に考究せられたる醫師方は以上氣性の區分、複性の種類を容易すく合點し給ふならんと存ずれども、素人の讀者諸君の中には、以上述べ來りし氣性分けをズット一遍通り讀み下したる後、恰も八幡の藪を廻つて出て來た旅人の如く何處をどふ通ッて來たやら一向取り留めのなきことの樣に思はるゝ方もなしとも申し難からん、そんな方は云ひ給はん「こんなことで、性分けを會得することが出來るものが何處にあらん」と、然し暫く待ち給へ、先ッ汝方は氣を靜にし思を平らかにし此

一見した位にては分りにくし

常に人の性を鑑定することを力めよ

事を研究せんとの決心を持ち給へ、人の性を判別するに長ぜんには能く性分けを研究しなければならず、中々一度や二度讀みたりとて充分分るものではなし、且つ又た唯研究するばかりにては未しなり、已に性分けを會得したらば日々接する人物に適用して眼識を敏くすること必要なり、斯くするときは終には隨分複雜したる性を持つ人をも一見して見分るを得るに至るべし、或る學者は身體の合性の夫妻の幸福、子孫の健康上に甚しき差響を生ずることを認むること強よきより、學校にて合性の一科を敎へ少年男女をして擇む所を知らしむべしとか、又は法律を設け婚姻せんと欲するものは合性に通ずる學士より成立ッ委員に申し出で其忠告賛成を受くべしなどゝ主張する者あるに至れり、讀者も知らるゝ如く歐米諸州に在りては基督敎主義により、法律上容易に離婚を許るさず、そのために心性の合性も充分ならず身體の合性などには頓と無頓着、唯若氣の熱愛に刺激され夫婦となりたるもの、互に後にて相手と相合はざる點を認

合性を學課の一とする論

身躰の合性は兒子に大影響あるべし

むるも離婚するを得ず、爲めに道德上云ふ可らざる不都合を生ずるの根源となる例少なからず、或は爲めに狂氣の夫を生じ狂氣の妻を生ずることもあり、合性學者が右等の說を唱ふるに至りしも故なきにあらざるなり。

合性　少なくとも身躰の合性の大切なることは博士パウエル君が現に自ら實見したりとて一々其著書に記されたる實例を見ても知るを得べし、同氏は性の合はぬ夫婦の間に生れたる小兒は皆幼時或は壯年に達せんとするときに死せし例を大抵一の合性の部に十二三も引かれたり、ニユーヨークロ氏の說を祖述する有名の醫師某なるものあり、パウエル君の所說を考へ數年來之を己れが聞見の達する限り實際に徵して其當否を調べしに、十中八九は皆其說の範圍を出でずとて、其著せし書物に何故に醫家が今日まで男女合性のことに左程の重みを置かざりしやを疑ふ旨を述たり、さて右樣の次第なれば結婚せられんとせらるゝ年少男女の方々、願はくは意を合性のことに用ひ給へ、自分にて充分

性の合はざるものと婚す可らず

兒の夭死は性の合はぬためなり

の判別が出來ぬときは宜しく其道を知れりと思ふ掛りつけの醫者に意見を問ふこそ宜しからん、若し互の意氣も投合し且つ戀愛の情も充分熟したりと雖ども身躰の合性に於て不適當のことあるを發見したらば結婚は思ひ止まるべし、啻に自分の爲め先方の爲めのみならず實に子孫のため社會のためなり吾人は戀愛と云ふものは通例世人の考ふるが如きものとは思はぬなり、戀愛に滿足を與ふる最後の手段何ぞ必しも指環を取換し會堂に僧侶の前に立ちて手を握り合ふことのみに限らんや、その戀愛の情にして眞に高尙純潔のものならしめん乎、發して膠漆の如き友情となり、更に兄妹の切愛と形を變ぜんも充分に滿足を與ふるに足り、何ぞ必しも夫妻たるを要せん。

博士パウエル君の說を硏究し之を實際に徵してかの別に何と云ふ原因なくして其子の夭死すること多き夫婦を驗ぶるに一として合性の不合格に原因せざるものなし、實に能く合性の理を覺らば、一對の夫婦を觀て直ちに其間に生ずる子の壽命、或は其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

活力と活粘力の區別

兒の罹るべき病氣の性質まで豫言するとも決して六かしきことにはあらず、一例を引かんに双方とも頭大質を有するときは其兒は腦に關する病に罹り易からん、殊に腦部過大にして水の蓄積する病に罹らん、又若し無色液質の盛なる夫婦の兒は腹部水腫とでも云ふべきか、腹部に水の蓄積する病、又は臟腑、腺などの病に罹り易し、活質の夫婦には熱病性、神經性、痙攣性或は肺炎とか胸膜炎とか凡て炎性の病に罹り易からん。

世間の夫婦を見るに婚姻の時も又た其後も健康に暮し居るにも係らず、一人も兒を得ぬは如何なとかと惑ひ給ふ方あり又は兒は數人擧げたれども一人も生長せず又は折角十四五にも達したりと思ふとき二竪の爲に奪ひ去らるゝ不幸を見給ふ方あり是等の疑ひは一たび活力と活粘力の區別を會得し給はゞ悉く氷解すべし、抑も活力と云ふはそれを持つ人に強健なる外貌を與ふるものなり活粘力と申すは病氣に堪へ長命し得る力を云ふなり、されば活力と活粘力とを兼ね有つ人あり、活力あれども活粘力なきあり、或は其反對にて活粘力あるも活力の不足する人あり、茲に一人の小兒ありと見給へ、其小兒一見したる所にては肥胖居るのみならず、血液も多量にて如何に考ふるも強健なる小兒と外思へぬに、些細の病氣の爲め取り去られたり、是れ活力ありしが活粘力に乏しかりし故なり、右の次第なれば活粘力ある人は假令へ平生多病にて見掛も孱弱に見ゆれども長命すべし、

活粘力ある者は長命す

然るに活力計りありとも活粘力を欠く人は如何程見掛は強健さうでも流行病などには一番早く取付れ、又た些細の病氣にて斃るゝとあらん、一例を取れば馬は人間より見掛は如何にも強健ならん、然し其壽命は人間の壽命の四分の一ぐらいなり、則ち馬は活力は人間より強けれども活粘力なき證據なり、馬の例を取る迄もなし。よく／＼人間の壽命を考へ給へ、何方でも今年四十歳あまりにもあり給ふ方は必ず記臆し給ふべし、汝方の未た幼少なりし頃、強健なりしと思ふたる人が却て夭死し、孱弱に見えたる方が今日尙ほ六十七十の齡を重

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

●●●夜學英語會話速成●●
●●女生徒募集●男生徒募集●

内地雜居も近きに迫りたれば英語會話の必要は既に貴女紳士の知る所なり然るに府下適當の會話學校なし故に余之を遺憾に思ひ公衆の爲會話學校を設立せり●六ヶ月にして能く外人と對話せしむ●束脩五十錢●月謝三十錢●今般ドス、レミヂチス孃會話教授を擔當す●初學者第三月生第五月生を募集す

●神田區中猿樂町十五番地（跡見女學校跡）大成學館夜學部

主幹 理學士 柴田初次郎

中島湘烟女史序
安東松二郎著

慈善叢書 **貧兒の教育**

定價金拾五錢
郵稅四錢

（貧兒の教育）第一章 貧兒教育の主意 第二章、教育の有無と犯罪者との關係 第三章（吾か邦普通教育の現狀）第四章（貧兒教育の方法）第五章（愛隣の美德の貴婦人令孃方に望む）第六章（結論）

同感の貴婦人令孃方並びに慈善家教育家諸君の愛讀を希望す

賣捌所 京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

轉居 神田區平永町九番地 **山田武太郎**

交詢案内

（催促する勿れ 郵券十錢送れ 委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

十二	下婢	年齡廿歳乃至五十歳位の[illegible]信者を雇入度者あり
十五	召使	家内の手助けとなり小兒の世話をなすべき年少女子を雇ひたし尤も相應の學問を學びたき志あるものを望む
十六	召使	市に小供の世話及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但官員の家内なり
十七	下婢	二十歳前後の炊水の方を取る下婢を雇ひたし商家にて家族五人仕事はひまなり月給は一圓以上
十八	下婢	年齡廿四五歳にて裁縫普通數學習字等を閑暇の節は教へ呉れすに付き添給にて雇ひ入れたし但し基督信徒ならば教會に行くも家内同信にすべし

●雇はれたき方（乙）

六	奉公	地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人の家にて求人協力傍學業雇ハれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし
七	裁縫	年齡廿三かしこく家内の手助けとならんがため内職に裁縫に雇へれ度き者あり華族様か貴家ならば大家のかたき内にて當地好みならば遠いても宜し其の他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し
十三	教師	栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教授に雇はれたきものあり可成くは麹町か駿河台辺を望む
一九	召使	裁縫の教授を重にし其他女子學校等に付添留守居様の者に雇はれたし
二〇	裁縫	年齡十四か五才にて早く嫁か或官員方の御方之内ヶ小間使に雇はれたし最も餘暇に裁縫を授けくだされば給料は不申受
二四	奉公	年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣轉の生れつきにて華族様か中以上の官員方へ小間使きに奉公いたし度し給金は望ん以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は百もに婦人衣服にて何服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に教師に雇はれたし

櫻草縱覽

四月十五日より
五月二十日まで

弊園培養の種類貳百餘種に及へり特に今年は數百鉢を増し陳列す大方の諸君御遊覽を乞ふ

上駒込染井 **常春園 伊藤重兵衛**

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

同志社大學義捐金募集取扱廣告

今般同志社大學設立ニ關シテ發起者新島襄氏ヨリ其主旨ヲ普ク江湖ニ告ゲ同感人士ノ義捐金ヲ募集被致候ニ就テハ各社ニ於テモ其主旨ヲ翼賛シ右義捐金募集取扱候ニ付篤志ノ諸君ハ多少ニ限ラズ金額相添ヘ各社ノ中ヘ御申込ミ被成候ハヾ取纏メノ上發起者ニ相渡シ同志社大學設立ノ資金ニ充テ可申候

一金圓御寄送ノ向ハ之ヲ受取リタル社ノ新聞雜誌上ニ其金高並ニ姓名ヲ記載シ別ニ受領書ヲ差シ出サズ

一義捐金額ハ拾錢以上ニ限ル

一本年四月三十日ヲ以テ締切期限トス

報知新聞
毎日新聞
朝野新聞
東京電報
公論新報
改進新聞
東京朝日新聞
繪入朝野新聞
東京經濟雜誌
基督教新聞
國民之友
女學雜誌

報知社
有日新聞社
朝野新聞社
東京電報社
公論新報社
三益社
東京朝日新聞社
繪入朝野新聞社
經濟雜誌社
警醒社
民友社
女學雜誌社

發兌

四月。六日 十三日 二十日 廿七日
五月。四日 十一日 十八日 廿五日
六月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
七月。六日 十三日 二十日 廿七日

定價

一册。六錢 郵税。一錢 (但府内無郵税)
十册。五十八錢郵税。十錢 (同前)
半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓六十九錢
一年分 二圓六十錢 府外は 三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する學會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を爲す者には雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合を定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引二十行以上二割引の四十行以上三割引（但し不道德なる書物の廣告は謝絶す有益なる書物の廣告は半價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄贈を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし）

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町銀々堂〇同芝西久保櫻川町萬谷堂〇同神田區猿樂町國々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新[illegible]町良明堂〇同京橋區木挽町三丁目萬字堂〇同本郷區元富士町協存堂〇同本郷區[illegible]木町二丁目[illegible]明堂〇同本郷四丁目文吉堂〇同[illegible]吉町[illegible]〇同太田町三丁目丸屋堂〇同日月堂〇同本町六丁目日の出堂〇京都四條通小橋西へ入深川米堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードー〇大坂[illegible]町四丁目[illegible]屋島支店〇仙台國分町十五番地伊勢安雜誌部〇[illegible]郡大町木村文國〇尾張國名古屋本町[illegible]町〇[illegible]松江新町橋通堂〇[illegible]大手町一丁目[illegible]〇江川堂[illegible]西內大丁町新々堂〇相州小田原新町石壽堂〇上州高崎田町蔡平堂〇土佐國高知本町三丁目紫園堂〇熊本文明堂

明治二十二年四月十二日印刷
明治二十二年四月十三日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J94+

女學雜誌

一冊六錢

當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年(第百五拾八號)四月二十日發

社説

滿目澂々(日本社界の一大弊源)

論説

女子の文學(池袋清風)〇鶴龜松竹梅(鈴木弘恭)

批評

紅葉山人の「色懺悔」(藤の屋)

叢話

男女相知らず〇過去語(其二)(高橋おろか)〇絶唱〇旅のはじ(むらさき戯稿)

佳傳

パンセアの傳

小説

理想の紳士第十二回(月の舍しのぶ)

新報

高等女學校行啓〇愛情論〇渡邊洪基君〇浮雲さ癡れ卵子〇敢て女學記者に教を乞ふ〇老孃會〇一夫多妻〇養育院慈善會〇東京女學校〇高等女學校〇産婆正副會長〇女雇人の數〇頌榮女學校〇海軍武官女子教育會館〇大垣遊廓地〇函館女子職業學校〇日本赤十字社委員長及副長

外報

デュマーク〇ハワイ〇ヂルクを退けし人〇ルーマニアの女王

附録

女子讀本〇婚姻説

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY